

門ル呂4 持  
409  
卷 12



江戸名所圖會卷之四

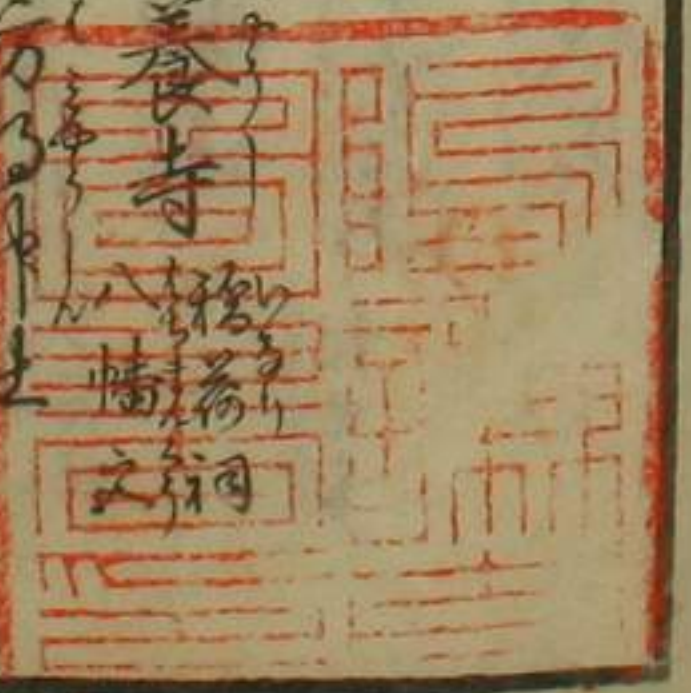
天權之部 目錄

市谷八幡宮 いちややちまんのみや  
 藥王寺 やくおうじ  
 大窪映山紅 おほくぼえいざんこう  
 澄明神祠 じやうめいしんじ  
 中野成願禪寺 なかのなるけんぜんじ  
 寶仙寺 たうせんじ  
 石作谷神の文 いしやくやかみのかみ  
 慈宏寺 じこうじ  
 金井橋 かねいばし  
 神樂坂 かみらくざか  
 閻魔堂 えんまどう

松源寺 しょうげんじ  
 若文八幡宮 わかつぶんはつぱんみや  
 津久戸の神社 つゆくほのしんじ  
 井頭辨財天宮 いとうべんざいてんみや  
 堀の内妙法寺 ほりの内めうぼうじ  
 中野長者昌蓮墓 なかのちやうぢやうしやうれんのみさ  
 自澄院 じじやういん  
 淀橋水車 いづみばしすゐぐるま

同桂寺 どうけいじ  
 七面大の神社 ななめんおほいのしんじ  
 西近寺 さいしんじ  
 角筈十二所権現社 つのすゝなにじふにすおんけんげんじ  
 中野 なかの  
 桃園 うづも  
 大宮八幡宮 おほみやはつぱんみや  
 井沼池 いぬまの池  
 築土八幡宮 つきたち八つぱんみや  
 汲元寺 きつげんじ  
 正親院 ただしんいん

安養寺 あんやうじ  
 法新の神社 ほふしんのかみ  
 圓照寺 えんしやうじ  
 中野七塔 なかのしちたつ  
 桃園観音堂 うづもくわんおんどう  
 幡ヶ谷不動堂 はたがやふどうどう  
 逢坂 あうざか  
 半込城址 はんごじやうぢ  
 赤城の神社 あかじやのしんじ



14

涉殿山 大友松 幸國寺 感通寺 全川 寶泉寺 百八塚 荒間山 氷川明神社 落合土橋 本花園那社  
 海松寺 宗柏寺 願満祖師堂 三石傳末子親世音 高田八幡宮 高田稻荷社 高田富士山 高田天満宮 山吹の里 傍石橋 右橋 奥州橋 着杜稻荷社  
 豊後小侍従大友義延舊領之地 宗冬寺 早稲田神社 昆沙門堂 宗良親王陣營旧址 高田馬場 三崎山 姿見の橋 氷川明神社 宿坂園舊跡 泰雲寺  
 子手院 赤城神社 誓閑寺 戸塚 和戸山 高田七面堂 南花院 七曲坂 全宗院 一枚岩  
 大洗堰 泊留橋 関八幡宮 大慈寺 雑司谷鬼子母神出現所 雑司谷鬼子母神堂 法明寺 大正院 蓮成寺 小石川 光圓寺  
 道祖神祠 新隠庵 小村季吟翁別荘地 大塚 水神社 道山幸神祠 本傳寺 宝塔堂 護心寺 本淨寺 宝藏寺 法立院 本納寺  
 牛天神社 道祖神祠 新隠庵 小村季吟翁別荘地 大塚 水神社 道山幸神祠 本傳寺 宝塔堂 護心寺 本淨寺 宝藏寺 法立院 本納寺  
 氷川明神社 大日堂 八幡宮 目白不動堂 波切不動堂 護持院 法立院 本納寺

落合堂 金剛寺 大洗堰 泊留橋 関八幡宮 大慈寺 雑司谷鬼子母神出現所 雑司谷鬼子母神堂 法明寺 大正院 蓮成寺 小石川 光圓寺  
 牛天神社 道祖神祠 新隠庵 小村季吟翁別荘地 大塚 水神社 道山幸神祠 本傳寺 宝塔堂 護心寺 本淨寺 宝藏寺 法立院 本納寺  
 氷川明神社 大日堂 八幡宮 目白不動堂 波切不動堂 護持院 法立院 本納寺  
 高田富士山 高田天満宮 山吹の里 傍石橋 右橋 奥州橋 着杜稻荷社 昆沙門堂 宗良親王陣營旧址 高田馬場 三崎山 姿見の橋 氷川明神社 宿坂園舊跡 泰雲寺  
 豊後小侍従大友義延舊領之地 宗冬寺 早稲田神社 赤城神社 誓閑寺 戸塚 和戸山 高田七面堂 南花院 七曲坂 全宗院 一枚岩

本木茶師如來  
宗慶寺  
白山神社  
浄茶園  
療病院  
祥雲寺

氷川明神社  
十羅刹女堂  
子家古城址  
松月院  
板橋澤  
一夜塚

猫狸橋  
宗蓮寺  
子家古城址  
德神現宮  
板橋澤  
清水坂

病産園福寺  
大堂  
子家古城址  
松月院  
板橋澤  
一夜塚

十羅刹女官  
二寶寺  
氷川明神社  
三寶寺池  
赤塚明神社  
愛宕現宮

石井井城址  
石井井明神社  
練馬城址  
立野舊跡  
照日塚

膝折里  
宗屋古  
内川  
十玉院  
阿彌明神社

野火留  
平林禪寺  
安松長源寺  
砲台齋友墓碑  
將軍塚

狭山の池  
水源寺  
八國山  
久米川  
小野天神社

曼荼羅湖  
小豆差系  
山親音堂  
新光寺  
燒米坂

山に足  
勝樂寺  
箱の池  
相馬現宮  
調神社

新堀玄蕃居住地  
還車河津陀如來  
所澤  
新光寺  
燒米坂

藥王寺  
戸田川渡  
羽馬現宮  
新光寺  
燒米坂

新曾妙顯寺  
子安清水  
大氷川神社  
源田山相馬資忠城跡同墓  
東光寺

市谷八幡宮 市谷御門の外より別當八東圓寺と号を南紀

高野山金剛峯寺に属して古義の真言宗なり

本社祭神 應神天皇 甲冑の神 相持ふ多田満仲崇信あり 靈

佛の愛深明王なり 本地 東の神功皇后 應神天皇の 西の妃大神 室滿菩薩 三

神鎮座 稻荷祠 稻荷と稱す其由信よりたす 故ふころよ略せり 此

神の産子ハ毎歳四月元三の月茶と飲む眼疾と患ふる者ハ一七日又三七日と日教と

社記曰文明年間太田持資江戸城擁護のため小相州鶴岡の八幡

大神を勧請し山林及び神田等若干を附して東圓寺を創建

を山号と稻嶺といふ此地より稲荷の社あり地主の神と又自親松推考此

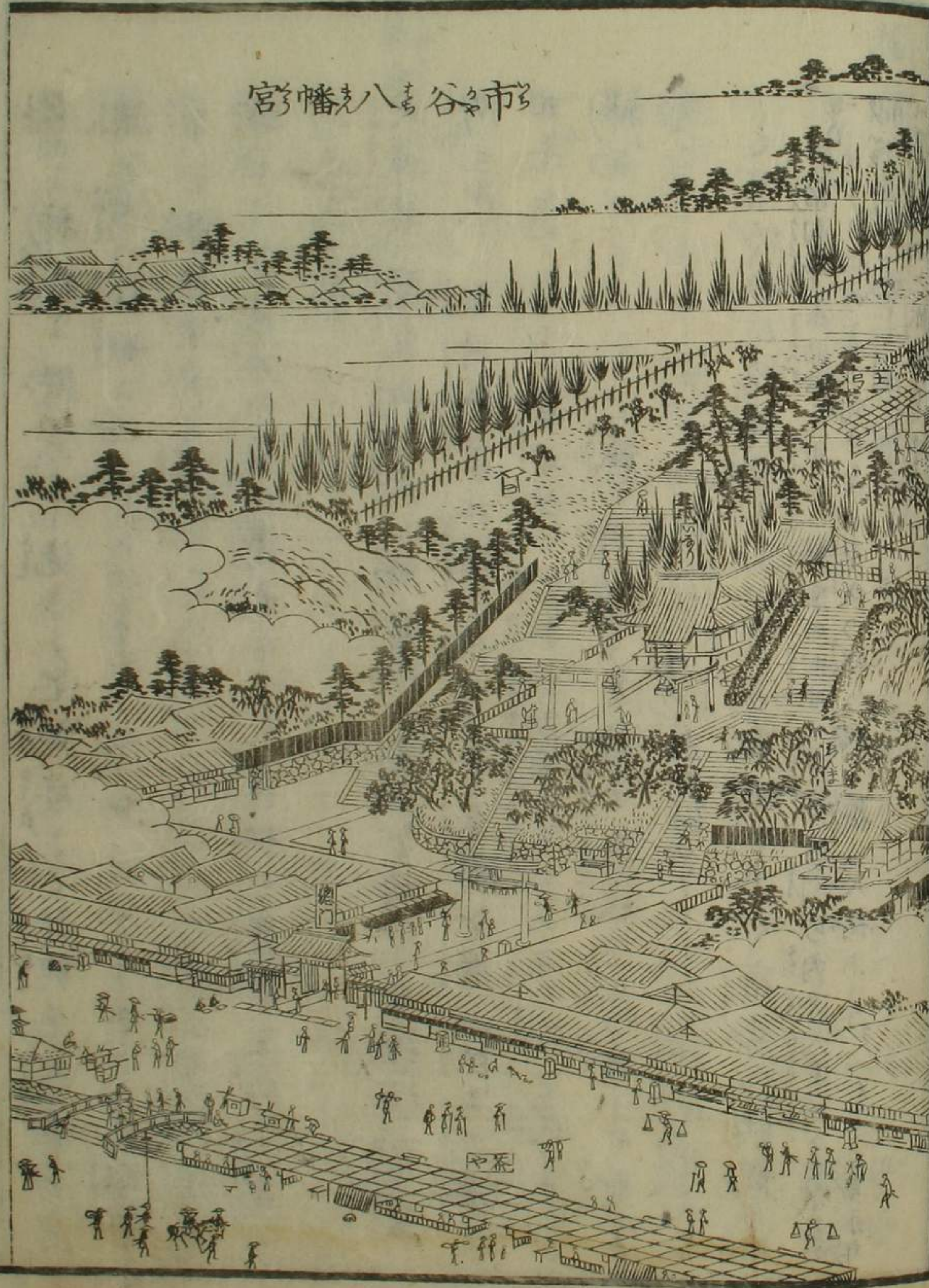
樹を栽す社本と社壇城廓ともふ繁榮あらんを祝す 土俗道灌

枝葉繁茂と平後天正年間兵燹より破壊せしを慶長年間

別當源空以僧都此類基と憤激し己う餘鉢を傾け百歩許の

遺址と點檢し州を結ひ橋と木を伐り扉と一字を再

市谷八幡宮



或人の説く市谷昔八市の立地ありて  
 市買ふ作りくるとの然れども詳あり  
 按小鎌倉鶴岡八幡宮蔵を多の延文  
 三年十二月廿日の基氏の古燈文に鶴岡  
 八幡の雜掌任阿中武藏國金曾木  
 彦三郎市谷四郎等の江戶路守  
 押領を止む正和元年八月十一日の  
 寄進状に任せ社家より付て

沙汰せしむ  
 云々燈文に  
 社地の殿基  
 楊弓の類に  
 ありて  
 賑々又社  
 前の大路に  
 四谷への  
 往來あり  
 行人  
 俗釋

嘗し神殿に擬儀し絶つるを継廢つるを興也然も諸を古の社觀に比せれば十之一を得るありあつて唯幣帛を捧げ祭具を盛宝祚の萬を泰山の安に置武運の綿くくを芥石の長に護兼て又萬姓の豊樂を祈る事取らるる

大神君 關東河入城の時當社の来由を問はるに河入河津三代 大將軍家社領を附せし朱璽を賜ふ然も元祿十五年壬午の夏 賢母後一位桂昌院殿當社の事蹟を聞かされ神輿の足らざるを憾と思はせしを黄金教杖を寄捨して新の是を奉造なりと云ふ神輿全く備ふるありしより神威昭々とて著く社殿の経堂も又のり輪煥とて宿昔の社觀も倍せり 南向亭茶話云く市谷八幡宮の旧地は市谷河津門の内今大番所のありし間今の地は迂し市谷河津門の隅に樹の根あり實永年此樹を神木と稱せり

稻荷山藥王寺

東光院と号し同所より西北の方河田窪あり

新義の真言宗より大塚の護國寺に属せり開山と澄覺

法印と号く本尊藥師如来の像弘法大師天台四明の洞の

靈石を得て彫刻しあり靈像あり貞享の初須田氏

某當寺に安置なり

稻荷祠

境内にあり相傳ふ太田道灌の勸請なり

當寺の護

正覺山月桂寺

同河三丁を隔て西南の方あり濟家の禪林

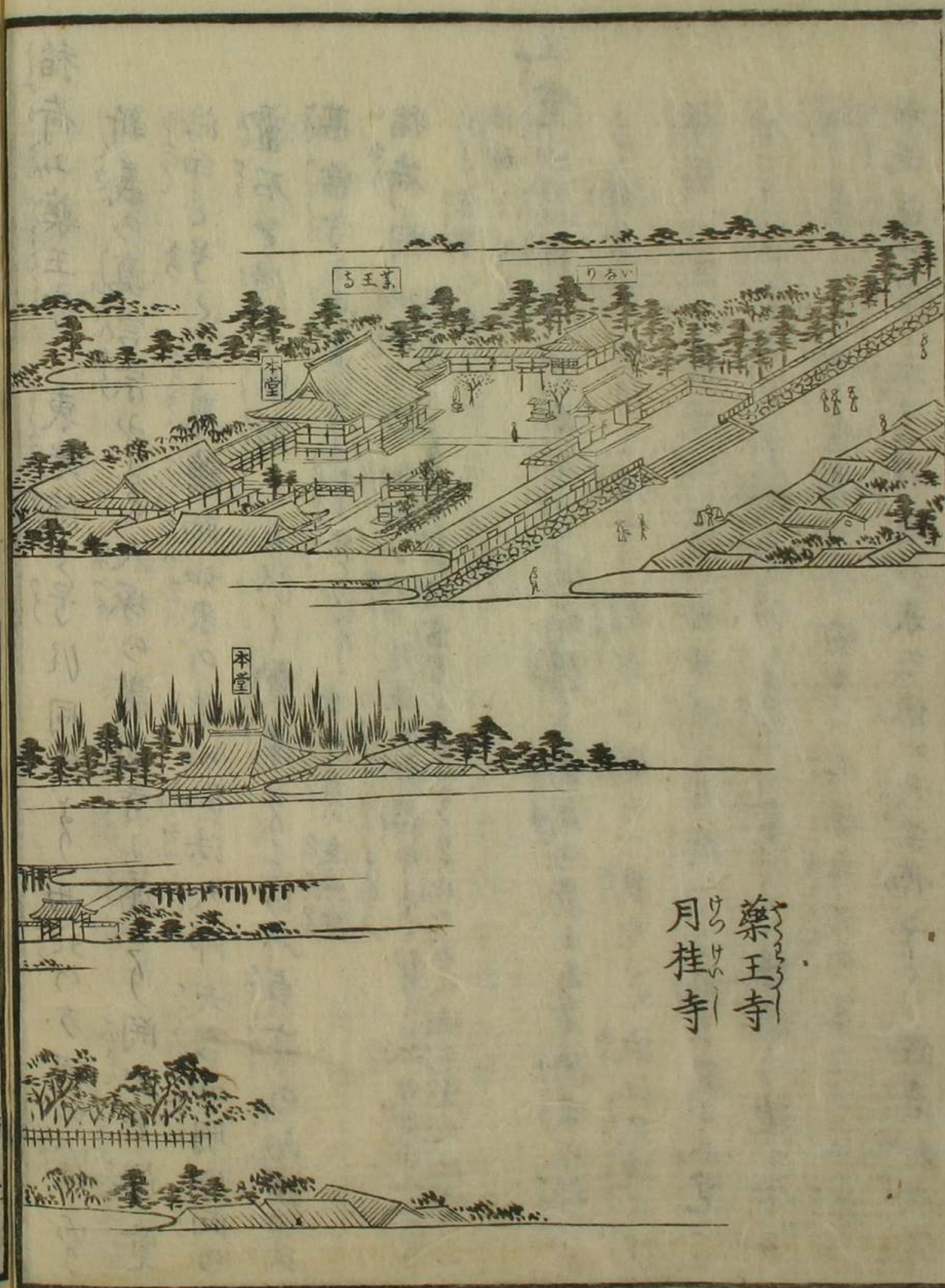
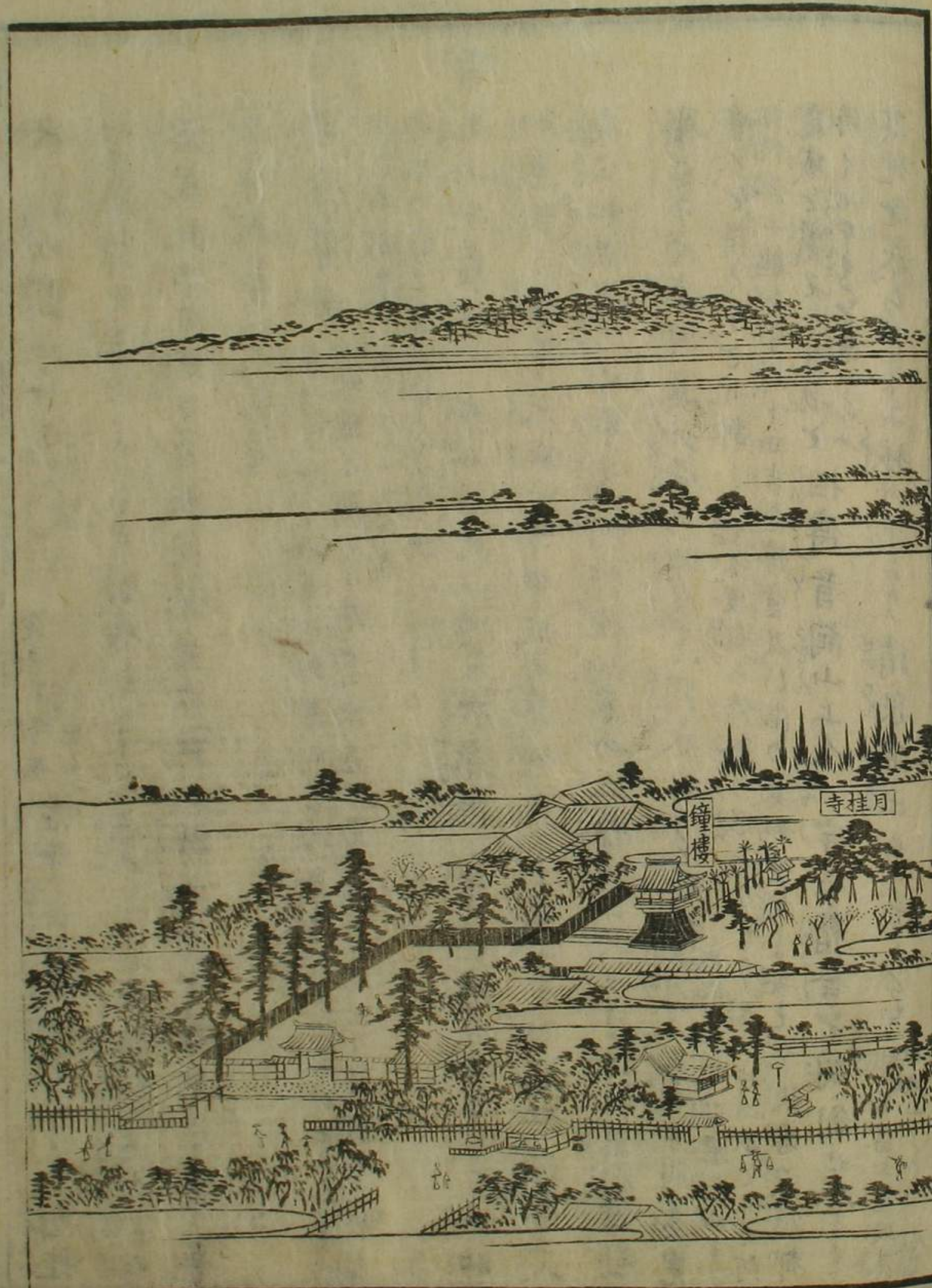
一々鎌倉圓覺寺に属せり關東十刹の一員なり

徹齋の創立喜連川家の香華院より徳門に掲る額に正覺山と

あり南禪寺の普濟禪師宗寛の書なり鐘樓の額に華應

閣と署せり香山侯書あり當寺に文祿年間の基立あり雪山

和尚開山と云く本寺釋迦如来の像に天竺佛中々鑑真和尚携



薬王寺  
月桂寺



来りての靈佛ありと云々 腹中は佛舎 當寺古ハ市谷ありて圓挂  
山平安寺と号けりしと明曆元年乙未のとき喜連川左衛門督  
源頼純君の嫡女月桂院龍室宗珠大禪定尼と葬せしより寺  
号と改むると云々

安産寶珠 當寺ハ安産將軍足利尊氏公の御臺所を所持あり  
此靈珠と拜する婦女ハ難産の憂かりしとき大ニ崇敬せり若當  
寺ハ平安寺と号けりしも出産  
平安の意ハあるなりん歟

清光山安養寺 市谷谷町ありて林泉院と号けり浄土宗中々京師  
知恩院ハ属す天正二年甲戌の草創なりて岡山を心蓮社深誓上人  
貞公和尚と号く本寺阿彌陀如来の立像ハ三尺三寸あり惠心僧都  
彫造ありて京師真如堂の本寺と同木なりとのみ

靈木を得て是と打割りて木理自ら佛髻の形となりて  
彌陀佛二軀と彫刻し日吉念佛堂及浴の真如堂等ハ安産  
靈威を蒙りて子餘材と相傳昔岡山上一宇の精舎と開創せんと  
得て此木を造ると云々 其地と求りしは林の下より清泉涌出せり云々  
市谷富士見坂其  
旧地中々今尾陽

公館の内 又傍ハ小き洞ありて中より一足の白狐頭をかく深誓  
上人ハ見え恭禮せり如く依り靈地なりと推知りて其地の主  
島田氏某ハ乞得て其地ハ梵宇と建ると云々

稻荷祠 境内ハありて治元年正月朔日の夜白狐の老翁住居秀誓上人の夢  
上人ハ見え告ちて白狐ありと直ハ稻荷明神ハ勸請せり又云々  
國宗ハ鐵右居住しりて深く信じて此神の如護よりて火災を免れり

八幡宮 同ハ境内ありて雲州の尼子伊豫守經久城内の鎮守ニ崇めりしと故ありて  
造立せり後月輪殿下兼實公の家ハ經久の鎮守と云々  
當寺ハ後覺僧都の持佐ハ法性寺の後先佛也ハ浴の壬生寺同木の地藏

七寶山藥王寺 同所西南の方よりて間四丁半を隔て黄檗派  
の禪林なりて山城宇治の萬福寺ハ属す昔ハ真言宗の古藍あり

中古大ニ衰廢し後ニ草庵の形となりしと元祿の頃凌  
雲禪師興復せり云々 凌雲和尚ハ信州の産ありて武田典厩の女の腹ハ  
海音院中判髪ハ後黄檗とある江戶ハ草庵を興復し諸曹洞宗  
の寺院とせんを謀ると云々 寺院を新建せりハ官禁あり云々



大窪天満宮  
 社壇西向  
 西向といひ又も  
 東の天神と稱す  
 まじり奉の果由  
 ありくは境内  
 もとより出還あり



大久保七面宮

七面大明神社 同東の隣日蓮宗春時山法善寺に安置す祭礼を

典綿とんわたとて忘るる事

寝廟漸備り四時の祭

祠を經營を聖護院宮道見法親王東國下向の時大僧都元信

移り止りあり其本を瑞現樓と号く此時青山氏某郷人と共謀りて

天正年間兵燹小かゝるも烏有とあり頃を神躰溪間の櫻の枝に

明慶覚運等是を奉祀を後又太田道灌神田を寄附す然るも

中々大先達より當社を世よ來の天神或は西向の天神とも稱せり

社壇西に向ふ赤雲あり相傳ふ安貞年間梅尾明惠上人の勧請あり

大窪天満宮 大窪あり此地の鎮守とす祭禮ハ六月廿五日なり別

當ハ梅松山大聖院と号し聖護院宮の直末本山派の江戸後所

一木藥師如來 同境内に安置せられたる地は立世の行基菩薩創建

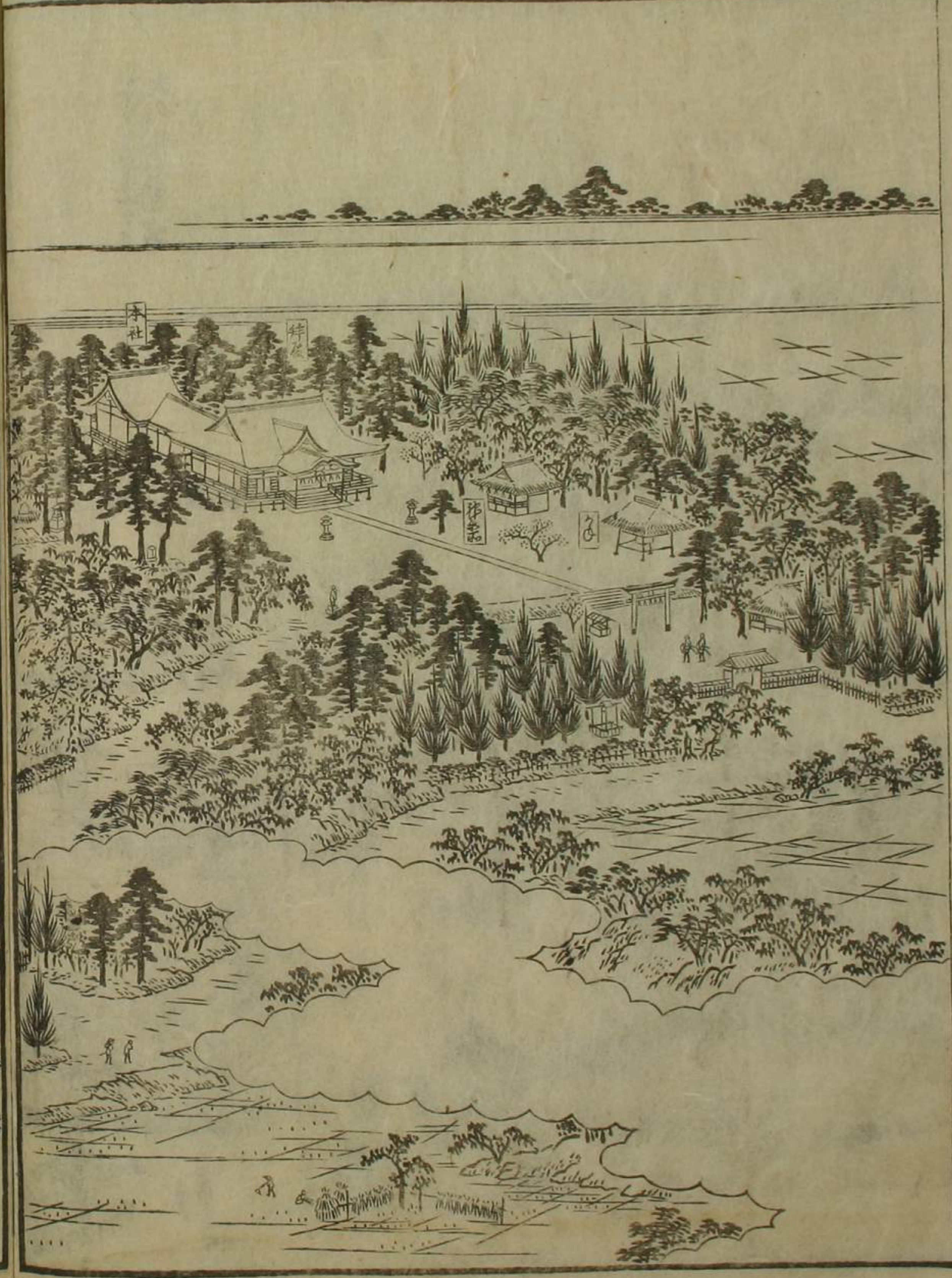
悉く一寺とある青山の海蔵寺深川の勸祥寺等あり其中ありとて

江の中八箇の庵室と号し

一寺の如來あり一寺の如來あり

今ハ人繼と書り

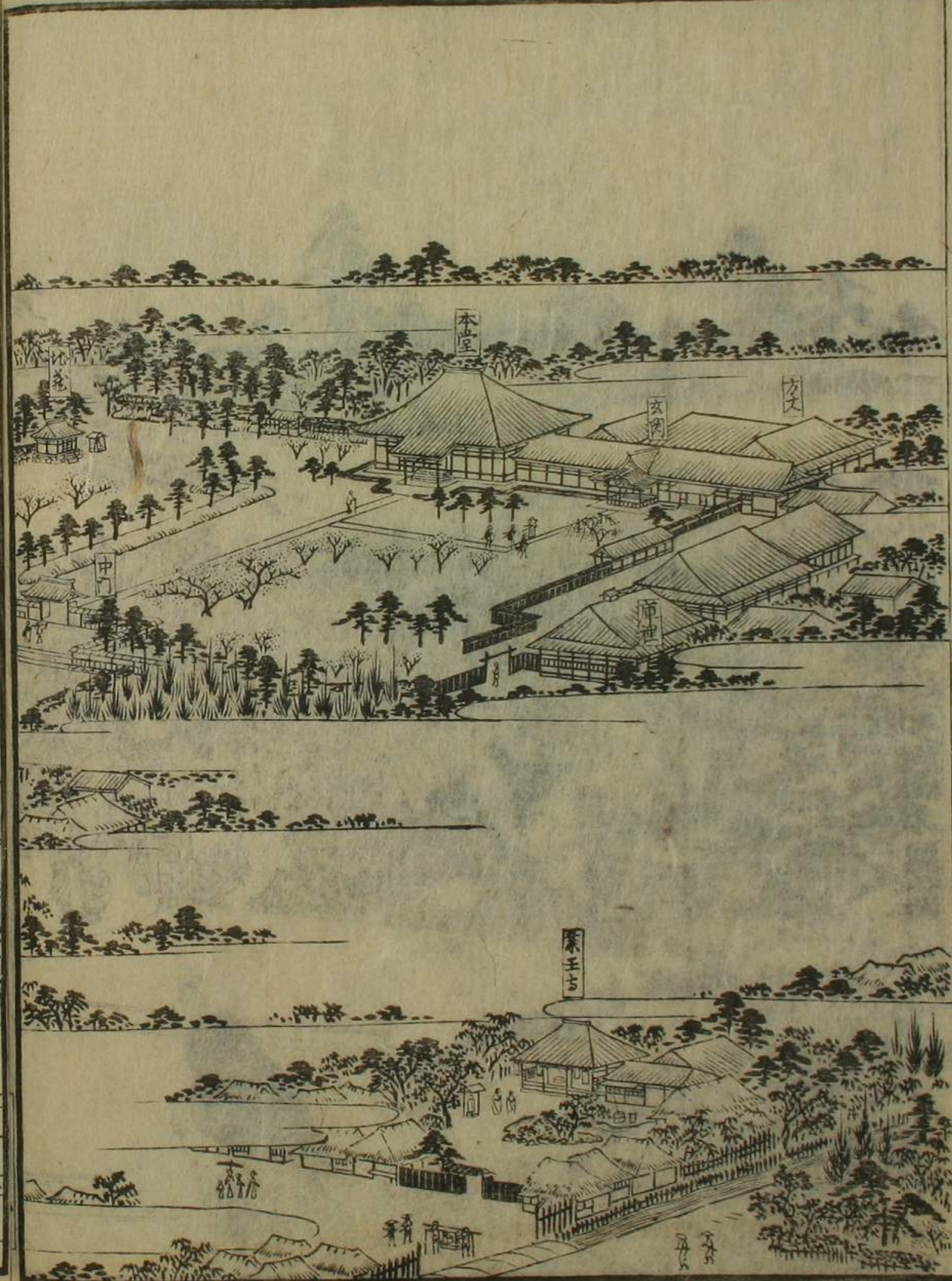
諏訪谷村  
諏訪明神社





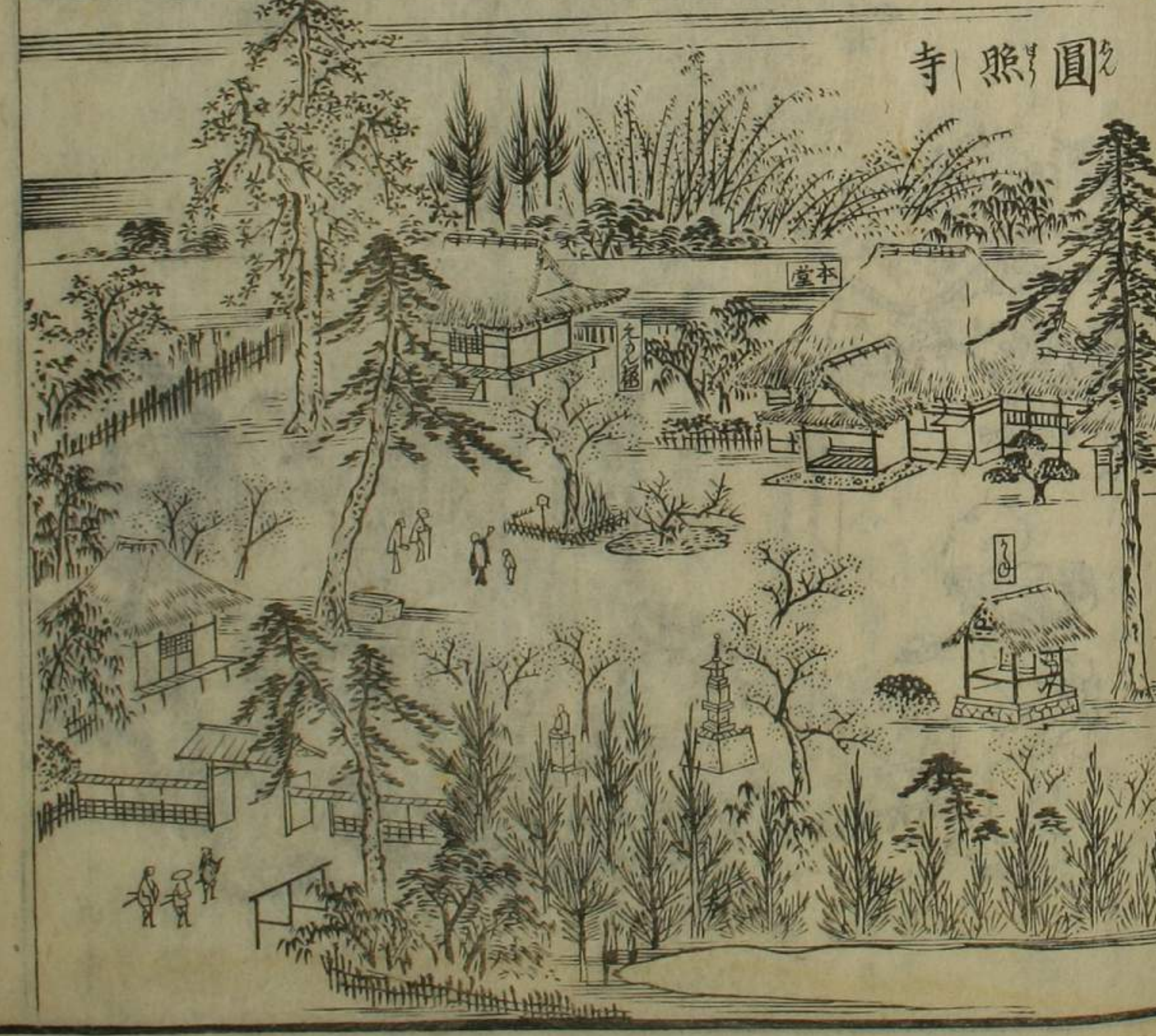
大久保の映山紅ハ  
 弥生の末以盛と云  
 長丈餘のりの数株  
 ありと其紅艶と愛  
 するの輩こそ小群遊を  
 花形微妙と云くとも  
 叢り開く枝莖を蔽ひ  
 さへに満庭紅を灌  
 う如く夕陽映しと  
 錦繡の林はるる  
 此辺の壯観  
 ありん

自證院





明鏡神社



圓照寺

九月十三日より十九日に至り誦経説法あり尊影八日護上人の  
 作との相傳ふ此七面宮ハ江戸の地ハ七面宮を勧請するの最初ハ  
 往古駿州大久保ハ三澤氏某勸請を萬治年間當寺へ移し  
 或人云三澤氏ハ小次郎政廣と云彼州の人あり後ハ駿河國富士郡大鹿村  
 院法性日弘 或ハ云延寶年間甲州身延山より移すと境内櫻樹  
 多くなりて弥生の盛ると一時の奇觀と也 寛文三年より此神前より  
 鎮護山自證院 同所西の方道より右側あり 饅頭谷と云 圓融寺と  
 号ハ天台宗やと東叡山ハ屬せり尾州亞相光友卿の沔簾中  
 千代姫君の沔母堂自證院殿光山曉桂大姉沔菩提の爲ハ開創  
 せし精舎なり本名ハ阿弥陀如来開山と日須上人と号ハ當寺始也  
 日蓮宗少く本理山自證寺と唱へん元文年間故ありて天台  
 宗ハ改めり當寺をせよふ寺と字ハ諸堂宇悉く種々此節  
 ある木を集めて造立しとて衆人々々奇異なりとす 因

柏木邑  
右衛門  
櫻



此稱あり蜘蛛の井とのつを當寺の境内にあり来由ハ誌に堪へず  
 小略を昔ハ山林小櫻多し由諸書に記されども多くハ枯  
 失せ今僅小古木二三株存せるのみ

紅葉山西迎寺 同巽の方ニ町を隔て四谷北寺町にあり 浄土  
 宗中ニ増上寺ニ属を往古太田持資の臣伏見勘七といふ人の  
 草創なりといふを旧ハ御城中紅葉山の地にありしを天正の後此  
 地に移せしといふ本多阿弥陀め来開山ハ儀蓮社仁譽上人存公  
 和尚と号す

醫光山圓照寺 瑠璃光院と号ハ柏木村にあり真言宗あり  
 田端の興樂寺ニ属を本多薬師め来の像ハ行基大士の作股士ハ  
 日光月光の二井なり又左右の壇上ニ十二神將の像を安ハ相傳ハ  
 醍醐帝の御宇理源大師の法弟荒波の貞宗僧都此像を此地に  
 安置しなるといふ兼平二年壬辰平将門威を東関ニ振入天慶



淀橋の水車



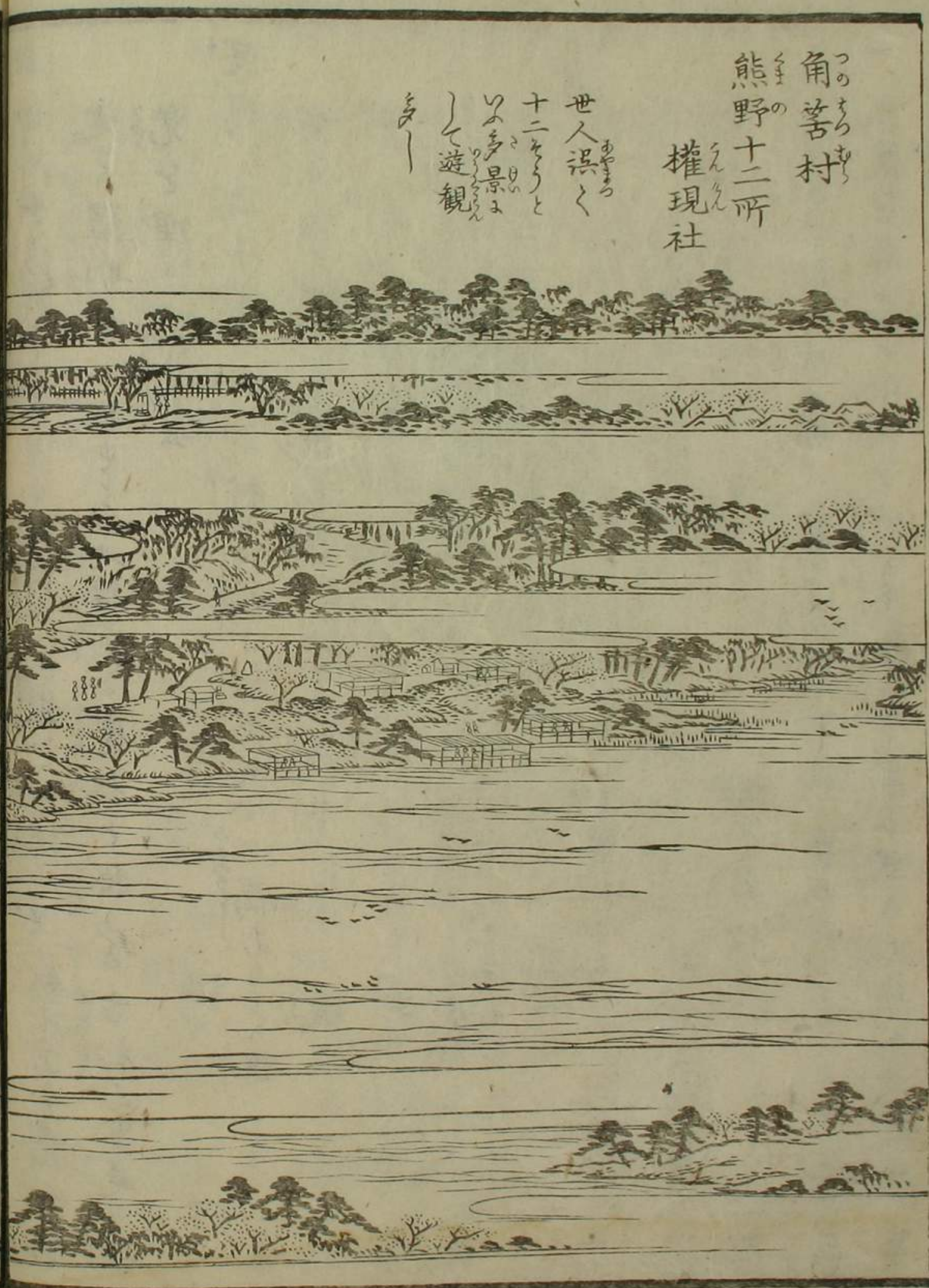
淀橋ハ成子と  
 中野との間に  
 あり大橋  
 小橋ありて橋  
 より此方水車  
 田圃ありて  
 淀川水準へ  
 淀橋と名  
 付てあり  
 台命ありし  
 より名とを  
 とり大橋の  
 下と流すを  
 神田の  
 上水の  
 あり

三年藤原秀郷是を亡きんう為軍勢を帥く當國中野に至る  
時右の臂は疾あり軍中醫菜なく大は是を憂ふ夜靈示  
あるを以て當寺の本も祈り病苦忽ち平愈せり時又  
將門征討の願書と献き果しく將門を誅戮せ故に凱陣の後  
堂宇と建立しく圓照寺と号し其後建仁二年壬戌に至り江戸  
民部大輔頼助修營あそととも弘安八年兵燹は罹り佛宇  
回祿せ其後永仁元年癸巳頼瑜僧正茅宇と普覆し日記と修補  
ましくとも天正中越の景虎此地に戦ひ一頃復兵火の爲に廢  
亡せしを寛永十八年辛巳に至り春日局官裁を乞て重く修  
復せしめり

右衛門櫻 當寺堂前より單辨中より芳香殊に勝れ類なき名樹あり里  
名は櫻ありとて源氏物語の柏木の右衛門とて名は就きくは呼しとあり  
小田原北条家の所領後帳は後部惣四郎所領柏木角苦  
圓照寺の良の方より圓照寺の持あり相傳ふ藤原秀郷  
將門を誅戮し凱陣の後將門の鎧を此地に埋藏し上は充倉を  
建り鎧明神と稱せしり社前は兜松と稱ある古松あり是も其  
兜を埋し印と云

淀橋 成子宿と中野村との間は架せ大小二橋あり此方より  
水車あり昔 大將軍家此地は伊放鷹の頂山城の淀は準擬此  
橋を淀橋と唱へし旨 上意あり因り号とすしとあり  
和名抄は武藏國豊島郡は餘戸とて村あり此地は豊島郡と多磨郡の中間に上古の  
あり人ありは餘戸橋と唱へしとありとあり是是非を考す  
旧名は面影の橋姿見すの橋なとも呼しとあり

十二所権現社 淀橋の南角苦村より祭神紀州熊野権現は同し  
本郷村成願禪寺奉祀の宮なり社記は云應永年間鈴木莊司  
重邦は後裔鈴木九郎某あり人あり紀州藤代は住りし流落  
し此中野の地に移り住す熊野権現は産土神と云ふより宅の辺の  
丘陵を圍みしく小祠を営み信深りし然り九郎或時北總葛



角<sup>つ</sup>の<sup>ち</sup>村<sup>むら</sup>  
熊野<sup>くまの</sup>十二<sup>じふに</sup>所<sup>ところ</sup>  
権現<sup>けんげん</sup>社<sup>しゃ</sup>

世人<sup>よびと</sup>誤<sup>あや</sup>り  
十二<sup>じふに</sup>と  
景<sup>けい</sup>を  
遊<sup>あそ</sup>び  
観<sup>み</sup>る

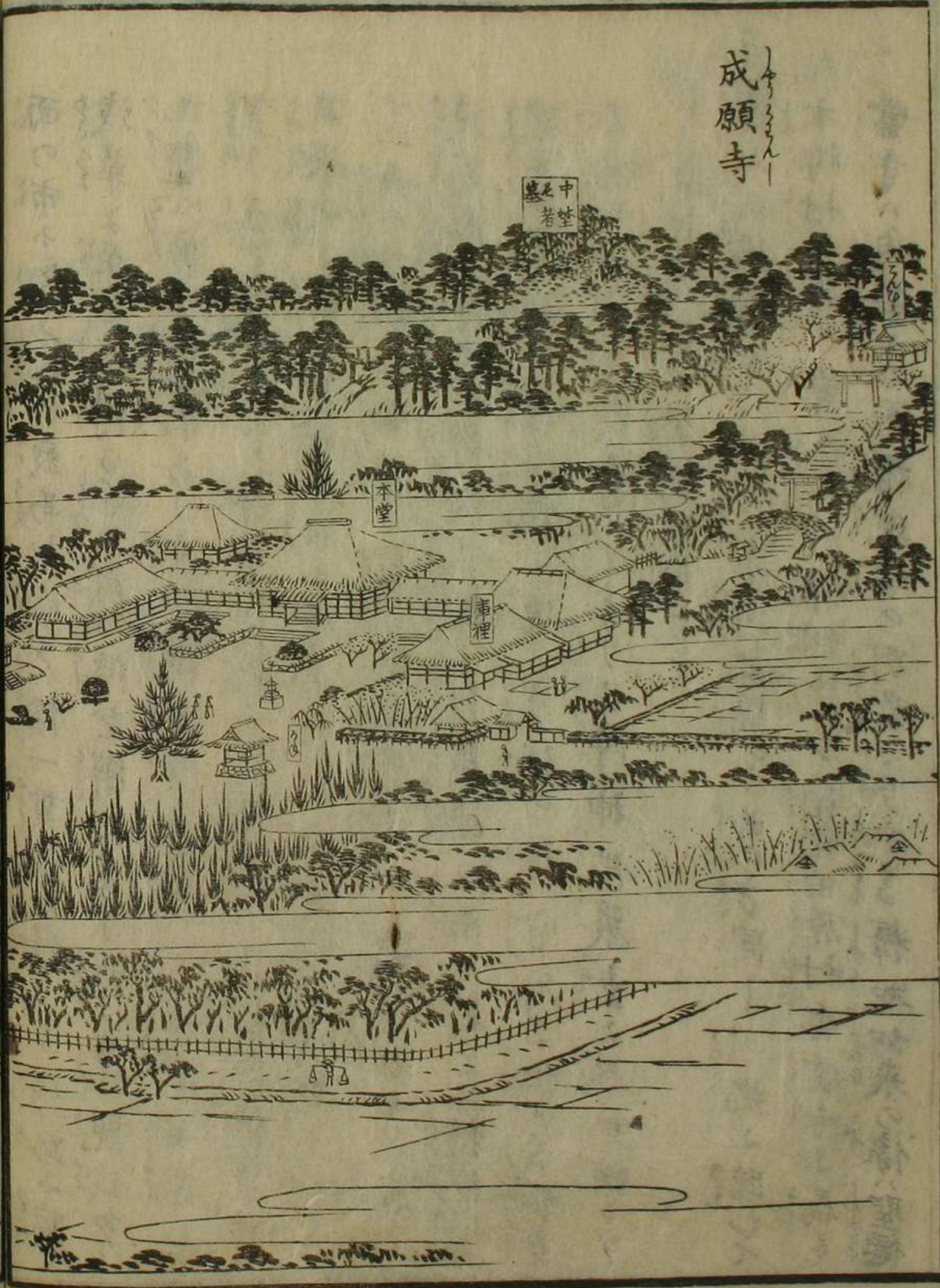
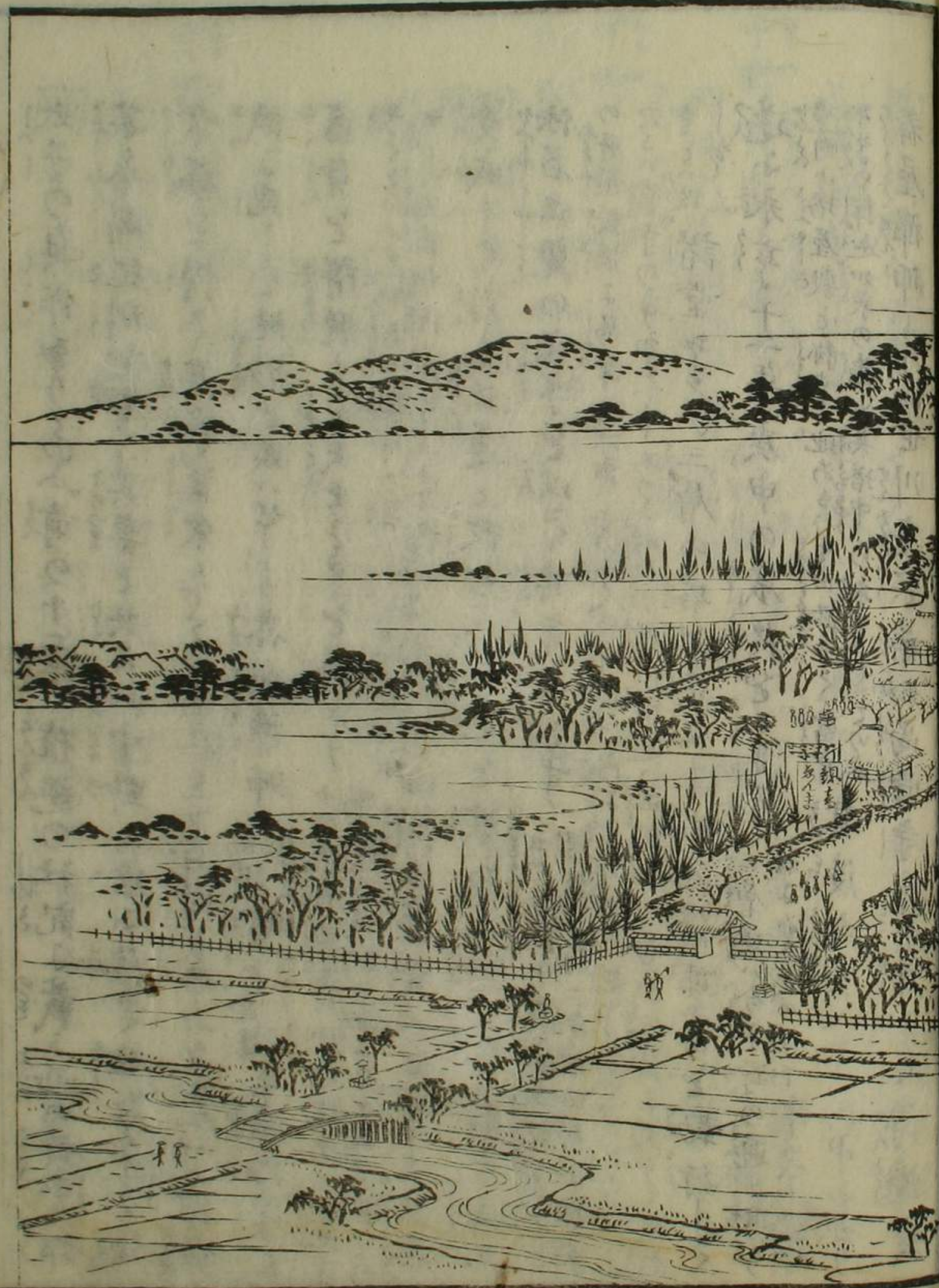
権現社

其二 熊野の龍



西の市小銅の疲馬を賣る價一貫文を得る。帰路小臨て  
浅草に至る其得る所の錢の借を解てり。小悉く大觀錢あり  
九郎心裏小あつあり。即觀音堂に詣り。其錢を宝前に  
奉り。身を空う。一々帰る。夫より後。さうさう幸福を乞ふ  
其家大に富をなせり。故に應永十年癸亥社を再興。更めて  
十二所の伊神を勧請し。なり。田園等若干を附。も教世を歴る  
後。荒廢はれ。人神燈光疎。祭奠常は。嗣と。とも猶感應の  
速ある。と。以て。村民恐怖。遂に。享保の頃。官府に。訴て。成願寺  
奉祀の宮とす。あり。あり。己降神。供嚴重。祭祀。解る。  
なり。九月廿一日を祭祀の辰とす。

多寶山成願禪寺 同所上水川を隔て西の方同一川端に臨む  
本郷村あり曹洞派の禪刹ありて相州田原村香雲寺に屬す  
當寺八角筭十二所權現宮の別當より本寺釋迦如来の像に聖徳



成願寺

中岩

太子の真作ありとのみ前の十二所権現の社記に載る所の鈴木九郎  
某本國紀州を以て其妻と共に此中野の地に移り住たり其後  
幸福を得て其家富栄えりされとも宿因あり一人の娘  
俄に死して蛇形を顯せし春屋禪師  
畜身を解脱し上天を以て得たり  
十二所権現宮の伊手洗池を蛇池と  
号す其時春屋禪師の著  
せし法服今於當寺に在り  
受戒して自ら正蓮と改む又居室を壞ちて精舎と爲し女の  
法名正觀の文字を以て其寺号とす  
野に永祿二年小田原北条家  
の所領從帳は島津又次郎との人の所領の内は中野内正觀寺との号と住し  
たる當寺の号ありし時八祿祿の項迄は正觀寺と号し其後に至りて成  
寺と改し諸堂塔より三層の塔と造立し生涯優婆塞を勤行し  
遂に永享十二年庚申の歳終とす  
三層塔は今中野の通り道より  
右にあり其の条下とす  
境内の塔屋敷と稱する地あり其地は古く當寺  
の寺の辨如來の像も其塔中の秘藏とす  
春屋禪師より四世川庵宗鼎和尚當寺の董席として傳燈成

挑く法嗣今は連綿と總門は掲げざる多寶山の額本堂は掲ぐる

成願禪寺の四字ハ雪峯和尚の筆なり

中野長者正蓮墳墓 同境内叢林の中あり 潤基鈴木九郎の墓あり其石

武州多摩郡中野の中正觀寺といふ某師の棟札は朝日長者昌蓮と記し

中野 淺橋の西とのと 淺橋の下を流る上水川を以て 此地ハ多摩郡小

属す武蔵野の中央ありと云ふ号すと云はれ 永祿二年小田原

帳は太田耕六郎知行の中は中野内河佐谷又中野大場源七郎分とあり地を

北國記行 中野の地は平重俊といふるに傳はる

中野七塔 今其所在を云ふべし 或人云三所を云ふとあれどあり

とそ里諺は中野長者昌蓮佛小供養の爲高田より 大窪迄北

間は百八員の塚を築くと云はれ 此の高田百八塚の条下と

應照せし人なり

七塔と

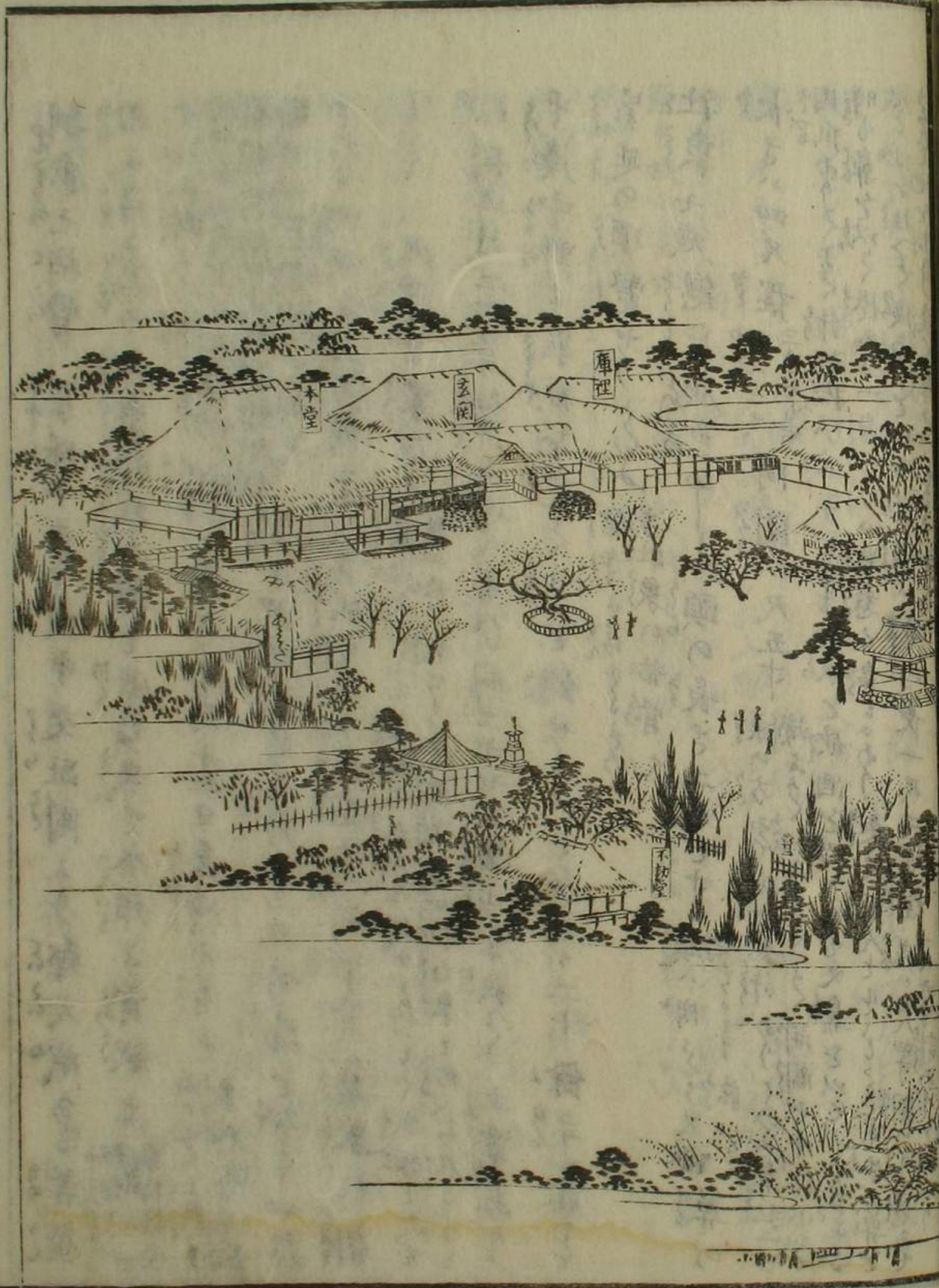
中野の塔



其類のものあり又中野の通り右側叢林の中に  
 三層の塔あり七塔の一なり傳へ云中野長者鈴木九郎正蓮の  
 建ふ所なり昔ハ成願寺の境ありと後世今の地に移り  
 今大日如来と名をとり昔の如きは釋迦如来あり  
 婦の肖像と稱するものと安せり  
 中ノ長者鈴木氏夫

明王山宝仙寺

無動院と号し寺領あり古義の真言宗にて同  
 西の方右側あり良辨僧都開基なりと云傳ふ本寺ハ弘法大師  
 等身の像なり願行の作なり中興開山を聖永和尚と号し往古ハ  
 大刹中々此地より二十町を北の方阿佐谷の地あり一  
 足利の代に至り今の地に移すたりされと大永の頃兵燹に罹りて  
 佛殿僧坊悉く焦土とあり因る其頃の日記も廢せたりと云  
 開創の時世々詳かり境內普門院ハ不動尊の靈像を安置を  
 良辨僧都の作とも或ハ願行の作ありともいふ



中野の  
 寶仙寺  
 當寺の享保五年  
 交趾國より貢獻  
 せられたる象の  
 柁骨あり



馴象之枯骨 享保十三年戊申交趾國より鄭大威ある者廣

南に産する所の大象北壯二頭を率ゐ来て本邦に貢獻せ

大泥國より米を寄り來り 同年六月十三日長崎に着せ

同申年九月上日長崎に於て覽せり 翌十四年己酉三月十三日崎陽を知り四月

陳阿那等欲後ひ來る 十六日大坂に至り同二十六日伏見より京花小入同二十八日禁脰に朝

天覽と蒙り 同五月二十五日江戸に迎へあひ同二十七日營中小飲く上覽あり

平凌中野は象廐を建てる是と飼せしれり二十餘年を歴く

寛延の頃覽せり 壯象七歳 總身灰色 頭の長さ二尺七寸

長さ八尺四尺程 同圍一尺五寸 頭の長さ二尺七寸

肉爪あり 針と拾ひ芥子とつまむ水と飲酒と吸ふも又鼻を以て食する

時鼻を以て捲入る一身の力皆悉く鼻あり 起る程 鼻の長さ一尺二寸程

眼の長さ三寸 耳の幅八寸餘 足の長さ二尺二寸同

長七尺四寸同圍一丈背の高さ五尺 或ハ五尺七寸 足の長さ二尺二寸同

圍一尺五寸 或三尺五寸圍二尺五寸とも有り 惣身 指は爪ハ五枚

羊腸を下す電の如く深き水を汲み 捷く 尾の長さ

解を故小象双々者其頭を跨ぎ 鉄釣を以て釣進退曲折左右まぐる 尾の長さ

三尺三寸 或ハ二尺七寸とも有り 此北象ハ長崎にあり一頃覽し

北象五歳 總身灰色 頭の長さ二尺五寸鼻の長さ二尺八寸

胴の長さ五尺半同圍八尺六寸背の高さ四尺七寸 或ハ四尺

程あり 其餘ハ壯象小等し 此北象ハ長崎にあり一頃覽し

飼料 一日の間は新菜二百斤 籐の葉百五十斤 青草百斤 芭蕉二株根を省く

大唐米八升 其内四升程ハ粥に焚く 是を飼湯水 一度ハ

饅頭五十 橙五十 九年母三十 又折節大豆を煮冷し飼あり 青草の中

殊小俗間角力取草と稱すものを好みて食す 青草も折やを粗と莖穂とも

飼或ハ藁大根のこつひも食せり 又好んで酒と飲とせり

甘露集 時あれはひとの國あけののりもろく九手ふるうれき 御製

法元 皇

情しきまのほろか人ふあぬののののの

これこそ此の時のつらさのつらさのつらさ

此園小石のつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

たふして民のつらさのつらさのつらさ

民をふたぎけつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

此のつらさのつらさのつらさのつらさ

桃園

同所西北の方十町を隔つ享保の頃此辺の田畝小悉く桃樹を栽しめあひて頃 台命ありて此地を桃園と呼せあひて

大將軍家伊遊獵の時の伊腰掛の地あり又岡の前を流る

小川に架せる橋を石神橋と唱ふ 此の地は石神の三室寺の地

桃園観音堂

土人の桃園と称せり同所高圓寺村の高圓寺と

〇〇〇 禪林小安置を本尊の聖観音や〇〇〇 恵心僧都の彫像ありと

〇〇〇 當寺ハ中野の成願寺に属す弘治年間草創なり 岡山を建室和尚と号す

〇〇〇 山号を伊殿山と云ふ 又當寺境内に桃樹多し 〇〇〇 桃園と

〇〇〇 稱せり 〇〇〇 故に土人の當寺と云ふ

〇〇〇 桃園の旧地ありと云ふ

阿佐谷神明宮

同西の方阿佐谷にあり中野の通りより右へ入る十

八町計あり 阿佐谷ハ小田原北条家の所領後帳ハ中野内阿佐谷とあり 祭神

伊勢ノ相同一神躰ハ一願の靈石なり 毎歲九月十六日を祭祀の

辰とせ別當ハ真言宗や〇〇〇 阿谷山世尊院と号す 中野の室仙寺ハ

旧地相傳ふ 景行天皇の四十四年日本武尊東夷を征伐し〇〇〇

伊勢陣の時この地小休らひ〇〇〇 〇〇〇 土人等尊の武功を

〇〇〇

〇〇〇

〇〇〇

〇〇〇

〇〇〇

〇〇〇

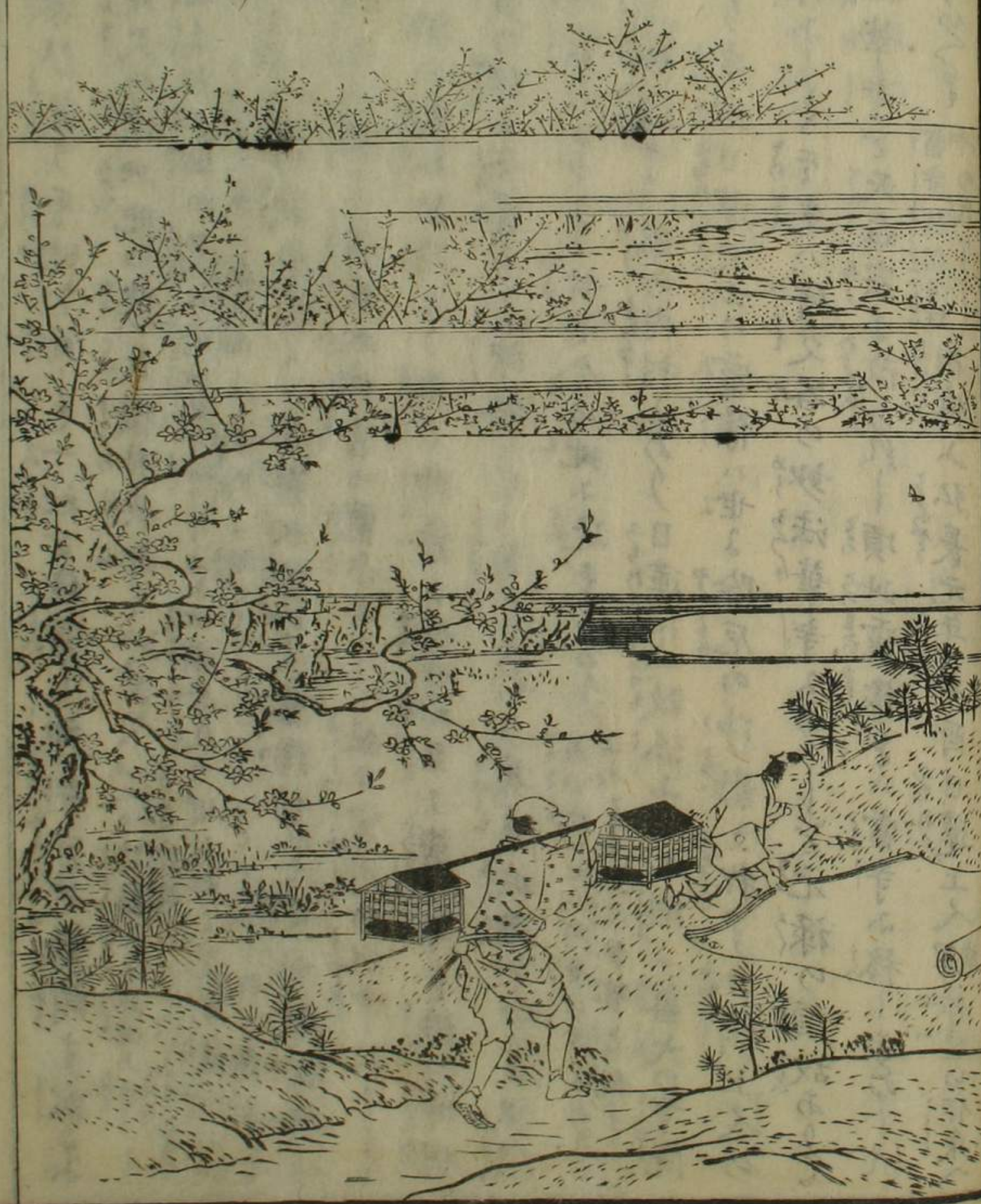
〇〇〇

〇〇〇

〇〇〇

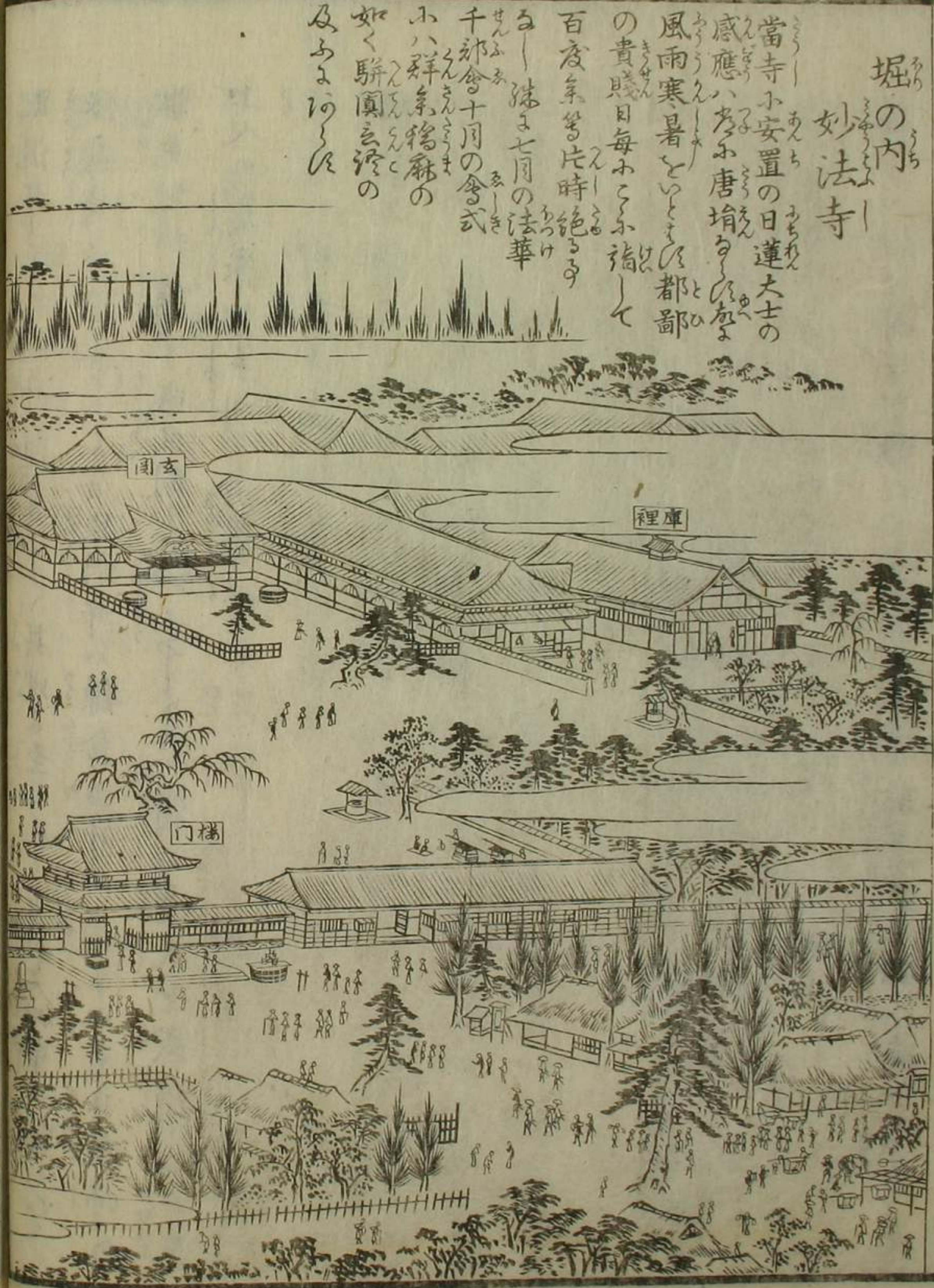
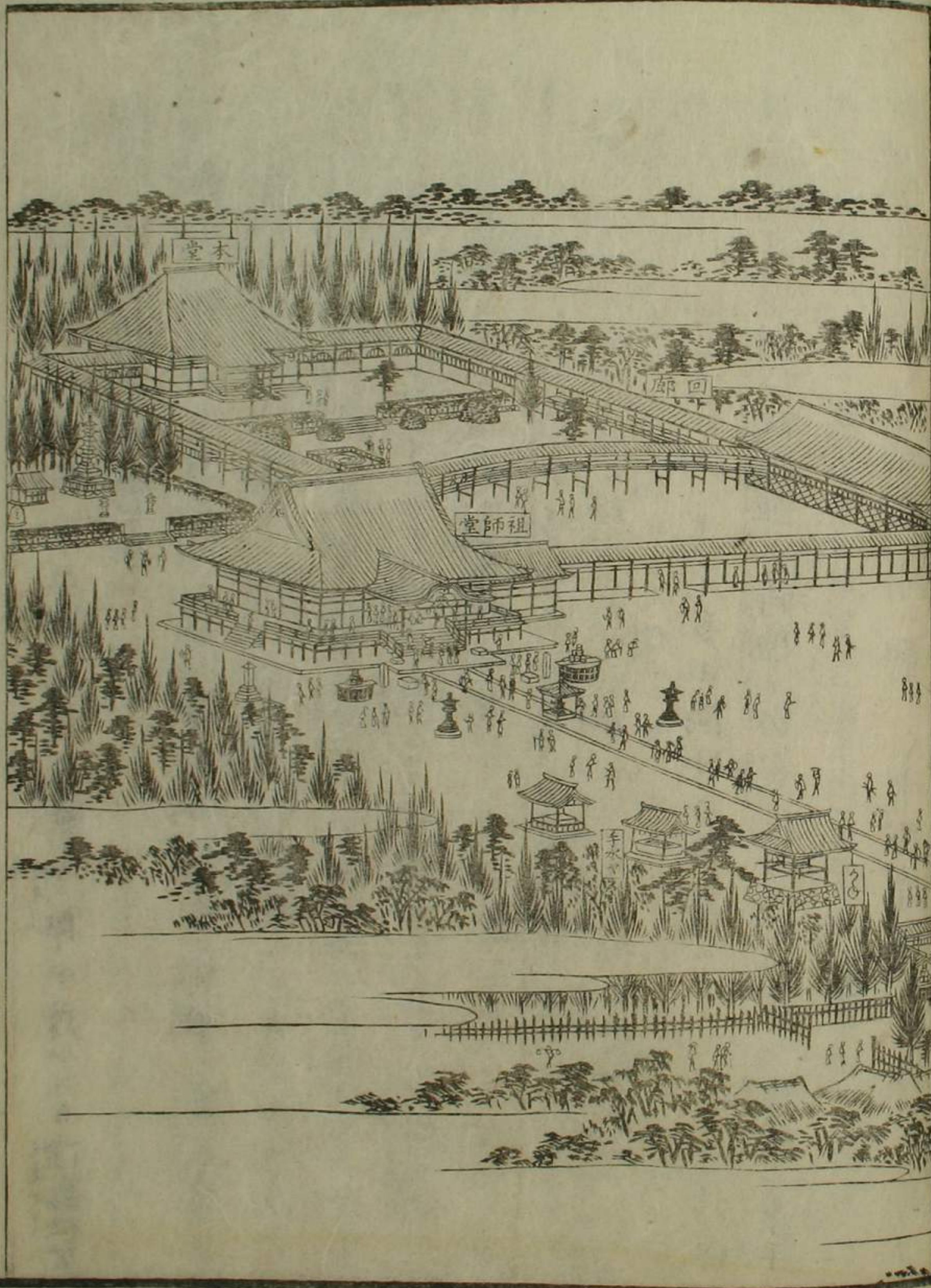
〇〇〇

桃園春興



慕ひまじり其地を封じ一社を徑營し神明宮と勸請す然る小  
建久の頃此地の農民横井兵部といふ人此人の遠裔今も此地に住し其子孫連綿とす  
頼義朝臣奥州征伐の時此地にありて此横井氏の祖兵部といふ者随兵に加  
りてありし急病に臨みて戰場に趣くありし時終に農民と多  
由家より祈願ありし事あり伊勢太神宮へ参詣せんと勢州能保野の  
驛舎に宿す其夜太神宮の靈示ありて翌日宮川の水中に  
一顆の靈石を得て依りて神意に任せ旧里に携へ歸り件の神明  
宮の社を安置し神跡となりし事あり其後祇海といふ沙門  
神告ありし事あり社を今の地に移すあり其旧地ハ七八所東の方あり  
土人これを元伊勢と稱す  
日圓山妙法寺 堀の内村にあり日蓮宗一致派にして頗る盛大の寺院  
なり宗祖日蓮大士の靈像ハ世に除厄の汚影と稱す日朗上人の  
作なり其先ハ碑文谷の妙法華寺にありしを元祿の頃故ありて  
法華寺と天台宗に改られし頃此靈像を八當寺に移し其後  
當寺住侶日蓮相傳ふ弘長元年辛酉日蓮上人四十伊豆の伊東へ  
配流せし日朗師隨身し其地に至らんとせし此事協つて

依其時上人の命あり日朗師ハ鎌倉由井の濱に止り日夜師の  
赦免を祈請す或夕同一海上中一箇の靈木を感得し日蓮  
上人の真像を手刺し常仕へて怠らず此汚影ハ宗祖大師の  
像と造るの權與あり諸天  
感應の時至りて弘長三年癸亥五月赦免ありて日蓮上人  
鎌倉に還るも其頃此像を感悦まり我心神今より  
此木像より其永く來際し延救護衆生の利益無窮ある  
我既ハ四十二歳中其救を得し此木像ハ除厄の号を稱し  
とて自ら點眼なり其功なり  
加持符 有信の輩三七日の間此符を對し正念不唱題誦經し其病床のありし壁に  
或ハ家の柱に貼す故に世俗張符と云ふ相傳ふ日蓮上人伊豆の伊東あり  
る靈應あり後浪師是を傳りしより已降せし相兼まるといふ  
當寺ハ遙小都下を離れしとて靈驗著故に諸人遠を厭そを



堀の内  
 妙法寺  
 當寺不安置の日蓮大士の  
 感應ハ老唐増々ハ多  
 風雨寒暑といふ都鄙  
 の貴賤日毎ハ不指して  
 百夜兼筆片時絶  
 一殊ヲ七月の法華  
 千部會十月の會式  
 小群系鴉麻の  
 如く駢圓玄の  
 及ふ河の

歩行を運ひ渴仰す毎年七月法華十部十月十三日沙影供と  
修りて至間群恭稻麻のぬり

大宮八幡宮 和田村ありあふ和田八幡宮共称せり別當ハ真言宗に

一幡降山大宮寺と号く 借中野の室仙寺 例祭ハ九月十九日とす

二十一日迄三日の間 神躰 應神天皇又左右ふ二神あれとも往古の兵燹よ

雁立く賑之り 雁立く舊記七ひりりとして 神名詳ありす疑わらざる 仁徳天皇と

高良臣ありてさう何とも靈妙奇異ありて文彩を加へて大古質

朴の風ありて彫刻最巧ありす 元禄の末ありて神厨子を釘

軸間別當祐照法印一七日行法ありて後真んてこれと聞き神像と拜し

とありて近年建部氏昌盛ありて人心のふ施しありて自ら神影を

画し神像と相傳當社ハ其先多田満仲の勸請なりとす後源

頼義朝臣奥州征伐出陣の時種々の靈瑞ありて神像と感得一康平

六年凱陣の時ありて宮居と堂建一源家守護の神とす故に

右大将頼朝卿又相州鶴ヶ岡の等しく神厨僧坊と重修ありて信心

最厚一昔ハ大社ありて社殿ハ宮居あり一然ハ足利將軍の世越後此

上杉相模の北条と戦ふ頃上杉の勢兵此地に屯一放火を 此時神像ハ

大樹の下に道れありて別當真順法印 此の地の社領ハ賊のあふ掠らるる神巫

社僧も四方へ分散しこれハ神躰の隠れし叢祠不安しなり一不天の

頃大石信濃守當社の古きを尋く神宮を建つ同十九年 忝も

大神君此地に台駕をりこれ 源家累代守護の靈神なりとす

ありしゆされ新小神領と附しありとす

幡谷不動明王 幡ヶ谷村あり真言宗光明山莊嚴寺に安置せ

本尊不動明王の像ハ智證大師の作なり毎年四月八日より同

十八日迄内拜せしむ相傳ハ往古智證大師江州三井寺を創建の

時彫刻の靈像なりとす 天慶年間平将門東國不在て逆威を

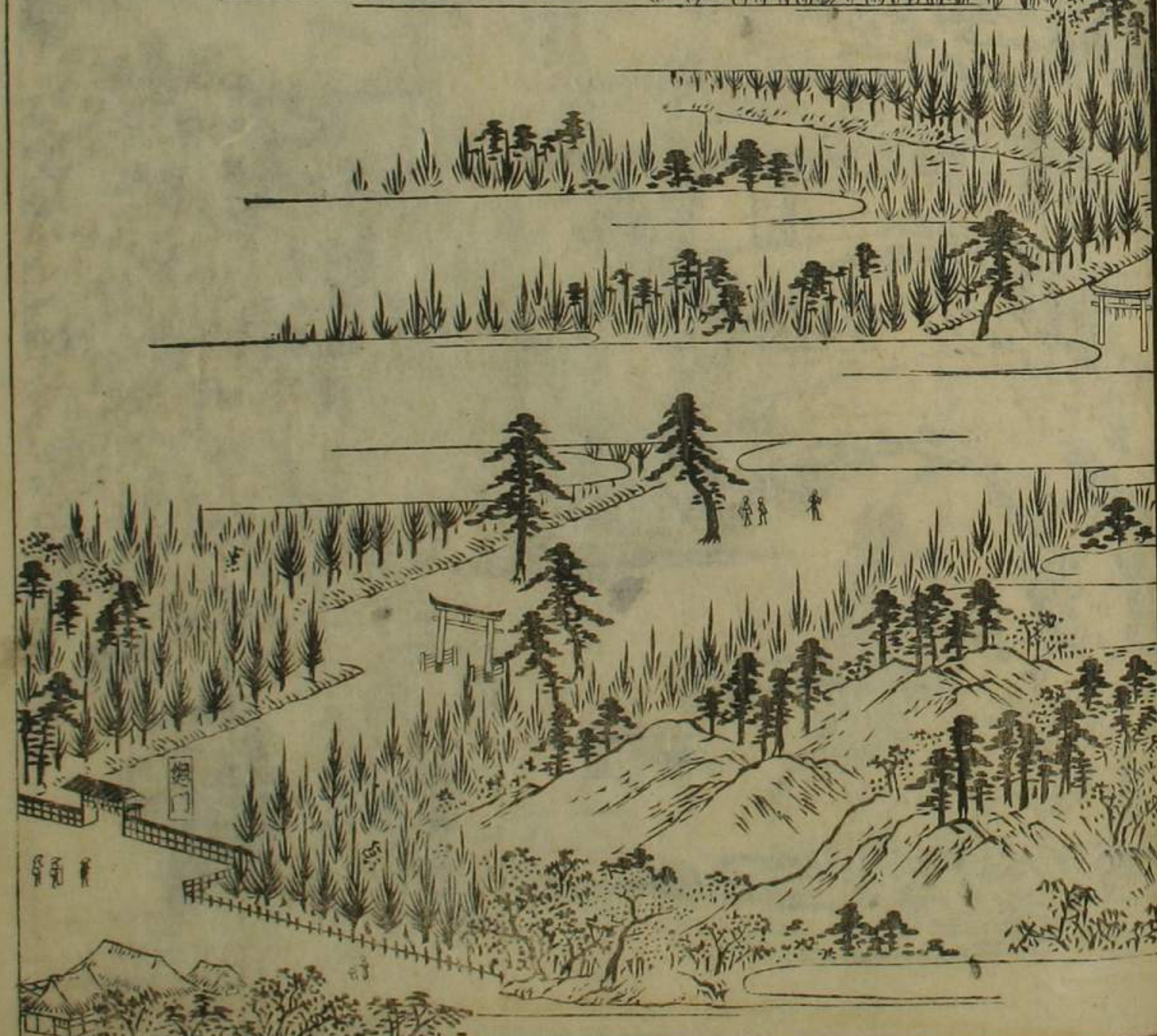
震ひ帝と惱しするがふ平貞盛及び藤原秀郷等追討の宣旨を

蒙り東國に發向をす時三井寺より此本を奉持し陣中

大宮八幡宮



当社廣前の老松、矯々と  
 して雲を拂ひ、數百歳の相と  
 標せり。白石先生も此松を賞  
 して、奥羽とて、わ房総、豆相  
 本、一、路、畿内、濃尾の諸川  
 にも未り、長松の多き、紙  
 尾、は、新、安、子、宮、不、記、さ、れ、り  
 又、社、前、の、大、路、は、往、古、の、鎌、倉  
 街、道、お、し、て、今、土、人、正、用、街、を  
 唱、へ、り、上、宮、井、戸、不、流、金、橋  
 と、名、の、あ、ら、い、し、り、  
 街、な、り、り、  
 田、村、と、ら、へ、り





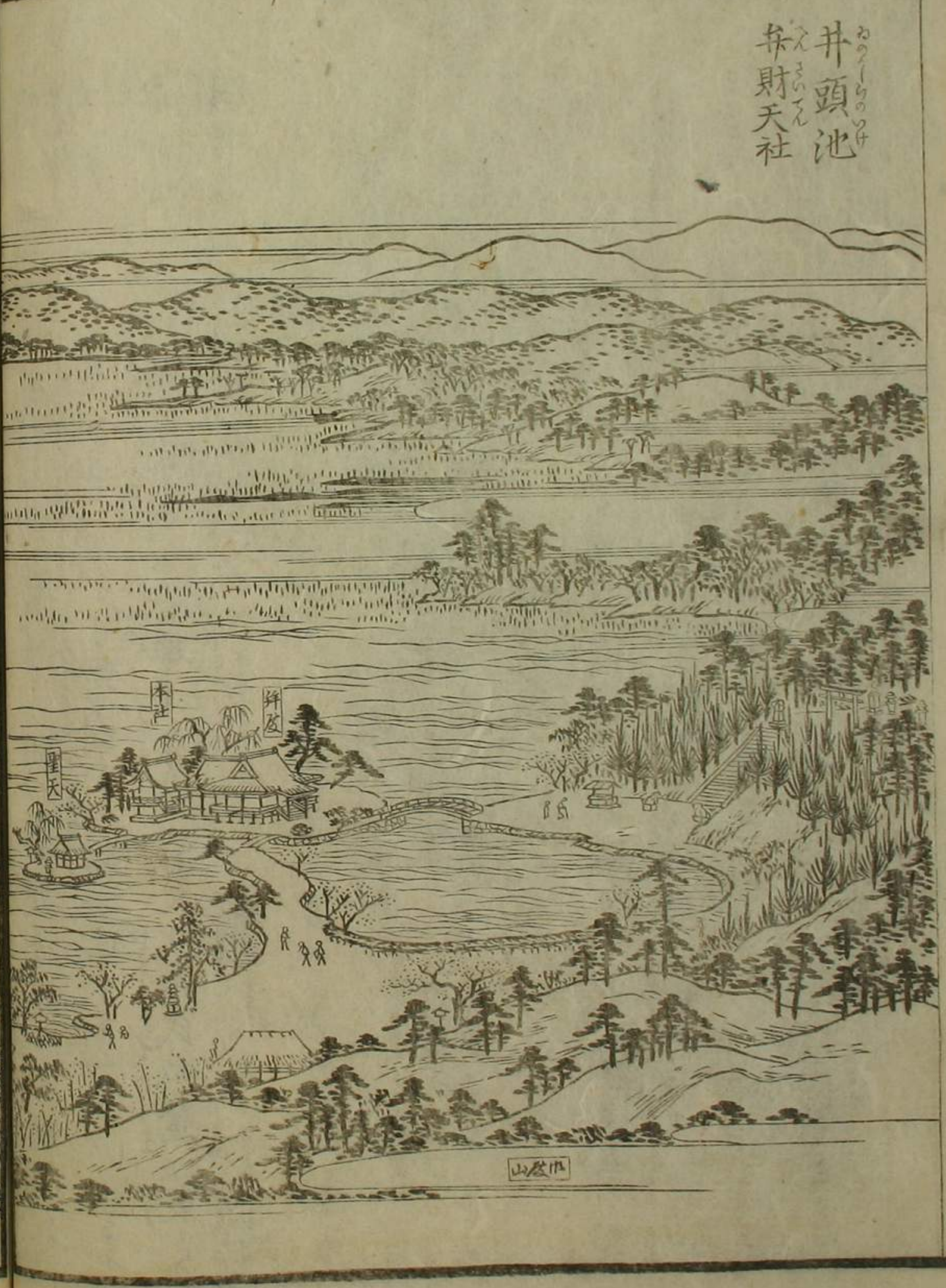
移しより軍の勝利を祈誓せし同三年庚子果々將門を討  
 亡したりしより後此靈像を下野國小山郷へ遷しまるゝ然るに  
 永祿の頃武田信玄甲州に安座しありしを又北条氏政棄ひ取  
 相州築井といふ所の寺院に入せりしを竟て天正十八年四海安靖  
 なるに及んで當國多磨郡宅部の三光院に傳へありしを靈像の  
 應わると以て延享四年丁卯永く當寺に安置しなるといふ事  
 井口山慈宏寺 大宮前新田川越海道の右側あり日蓮宗や  
 寛文年中の草創洞山八日賢上人と号し本尊三寶を安置  
 當寺に安置の日蓮大士の像八日朗上人の作なり相傳弘長元年  
 辛酉五月十二日大士伊豆の伊東に滴せし朗師大士の別れを惜  
 まるゝせ靈木を得く大士の影像二軀を彫刻あり 一尊は座像  
 法華寺ありし後松の内妙法寺に安置す其二は立像なり當寺に安置す即  
 此靈像なり旅行の艱相ありし世に光明木旅立の影とも稱し  
 大士鎌倉へ立帰るゝの後點眼ありしと傳ふ





神田  
上水の  
海

井頭池  
弁財天社



山

井頭辨財天宮 牟禮村あり 井頭の池靈や〜中島に宮居を

別當八天台宗中々大盛寺と号し相傳ふ建久八年鎌倉右府將軍頼朝卿創建し〜  
正慶年間新田義貞鎌倉と對陣の時當社に軍本寺の天女の靈像ハ傳教大師作り  
寛永十三年丙子

井頭池 神田上水の源あり長さ八西北より東南へ曲り〜三百歩さうり

中ハ百歩ありあり池中ハ清泉涌出する所七所あり〜旱魃も  
涸るゝわ〜故に世々七井の池とも稱し相傳ふ慶長十一年

太神君適々ふ至らせり池水清冷や〜味ハの甘美なるは  
賞揚し〜ひ伊茶の水は汲せ〜又寛永六年

大將軍家〜ふ渡御なり〜ひ深く此池水を愛させ〜大城の法許ハ  
引せら〜き旨 鈞命あり〜伊手自池の傍なる 辛夷の樹ハ小柄と

〜と井頭と彫付〜是より後此池の名とす  
年間官府より井頭の水道を開く〜初〜神田

上水の稱あり寛永八年辛未の夏池水涸りあり〜と天海大僧正加持し〜  
十五日より四月十五 伊揚枝の柳ハ聖天堂の後より

藤 今在所〜三ツ柳ハ神木と稱す西北の方ハ丘陵と今伊殿山と  
〜ハ昔省耕の伊殿館あり〜歌わ〜あわ〜唱つ〜と〜り

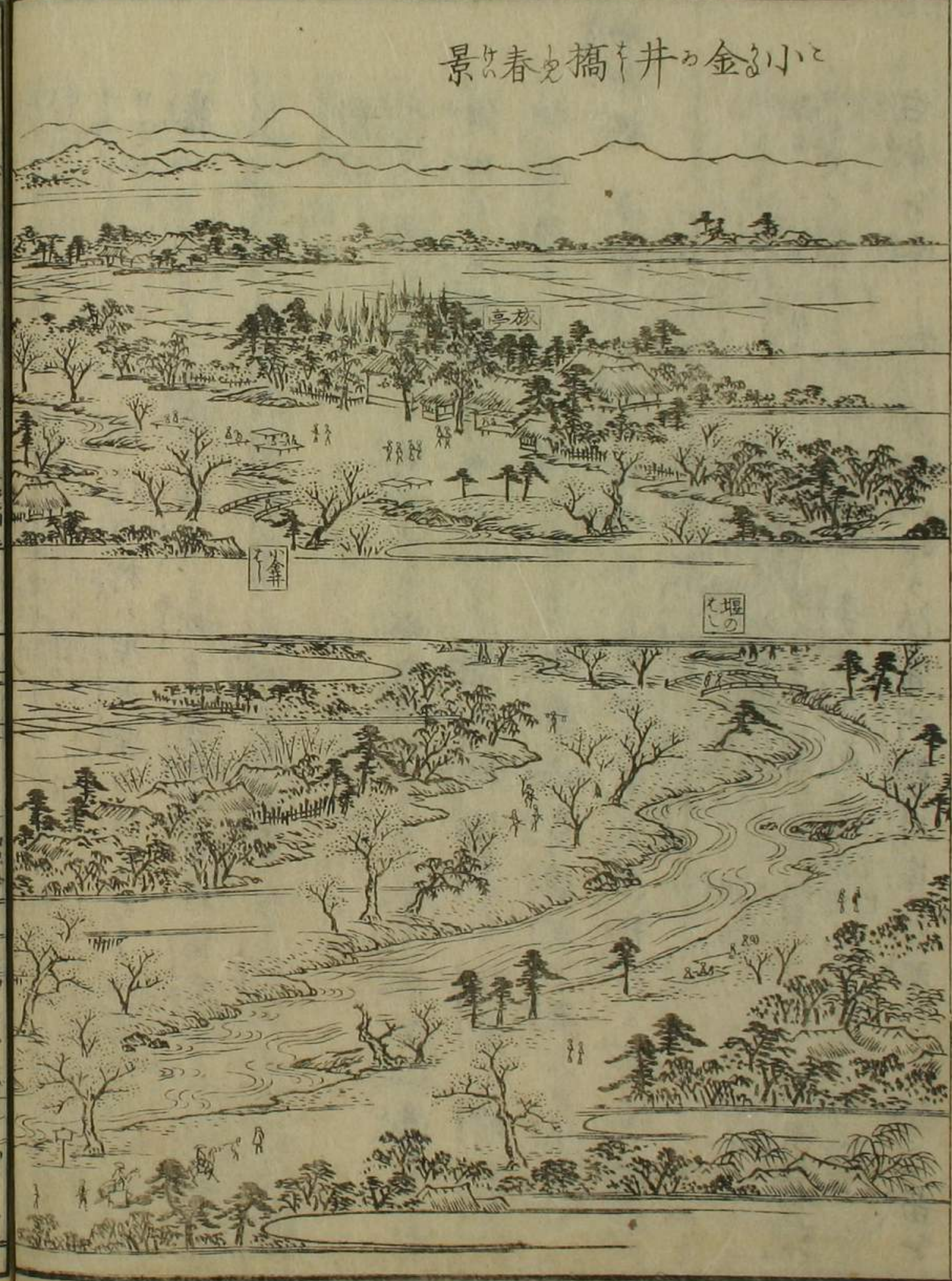
此池ハ清泉や〜炎天や〜水の減ま〜り〜常ハ泌沸と〜  
湧出す其地最剛寮あり〜池辺柳樹多く初夏の頃ハ

新葉黯〜と〜陰と〜浅翠嬌青碧空と蔽ふ似〜

金井橋 多磨川の上水堀兩岸の芝塘よあり金井村に架す故に名

水源ハ川村より新橋の東北千川上水の掛口のあり〜九一里あり〜兩岸を  
〜何〜地名〜至〜唱〜金井橋の類〜架〜橋大ハ七テあり

此流と大江に〜直流九十里あり〜是〜玉川上水と号す兼鷹の項迄  
此地の櫻花ハ享保年間〜或云丁巳 郡官川崎某  
台命を奉〜和州吉野山坊〜常州櫻川等の地より櫻の苗を





芭蕉  
あけく  
ましまひ  
さ〜  
春此  
夜ハ



小金井橋 小金井邑の地不傍て  
流る玉川上水の素堀り  
架は故も此名あり岸と夾じ  
桜花の散り株の梢に垂る  
落英續約たり開花の時  
い橋上より眺望せしめ  
雪とあり雲とまうりして  
一月千里を後盡る際以  
あ〜い仍て都下此落人  
遠と願きしてあ〜遊賞  
ま〜りのあ〜は  
梅酒と暖め  
茶と煮あ  
あ〜店あり  
遊人或ハ  
悲し或ハ  
あ〜

殖らるる中々其數九一萬余株ありしを  
項まて八年の官府よりこれを殖つせむひと  
あり今ハ千載大減九三百株ありしを  
開初る六十日目を満開の期とす七十日目の頃小至りて落花を  
最五年の寒暖ふより少の遅速ありしを大方違ふを  
就中金井橋の辺を佳境やしく爛熳しく  
川の流をを夾んで一目千里実より前後尽る際とありはあり  
遊へハさるる白雲の中ふあるうめく蓬壺の仙臺に至るうめ  
しゆる最奇觀なるふ近年都下の騷人韻士遠と厭はしとてふ  
来と遊賞す

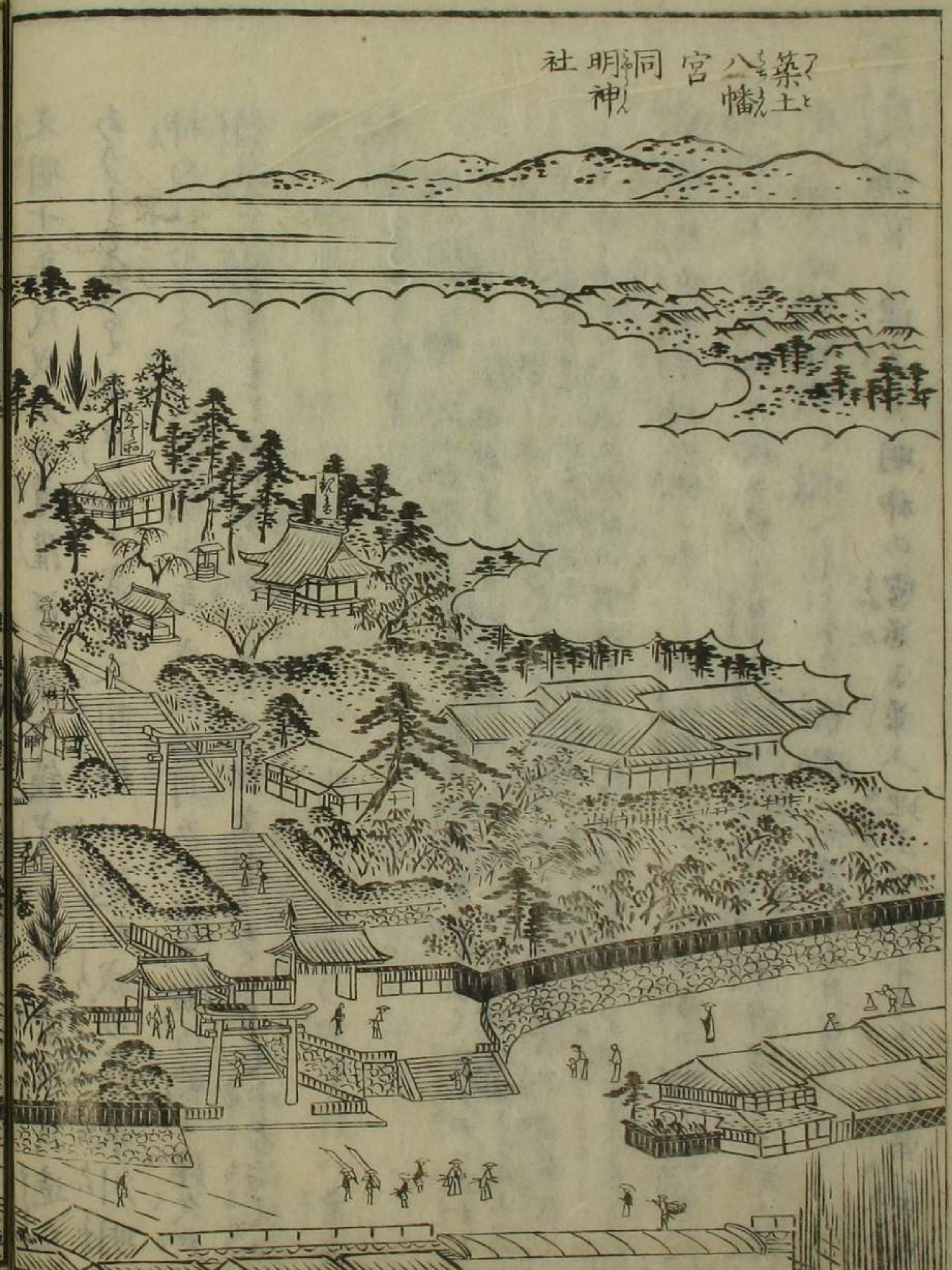
津久戸明神社 築土銀町あり  
宗中々善龍山成就院と号し本地佛ハ聖觀音傳教大師此  
作なり相傳ハ天慶三年庚子相馬將門誅せられ後首級と  
當國江戸平川の觀音堂へ移し是を齋く津久戸明神社と稱せ

文明十年戊戌太田道灌江戸城の鎮守とて宮社ヲ造立  
ありしとて永亨記ハ武州入間郡川越の城の乾ハ氷川明  
神の社ありし準へ文明十年戊戌六月五日江戸城の乾ハ津久戸  
明神を勸請せしと云 江戸砂子ハ永亨記を引くかくのひ 又中古治乱記  
江戸城を築し茶下ハ津久戸明神ハ氷川と同弊の由なれば素盞  
鳴尊なりとあり

按し將門の靈ハ後合祭しとて南向亭茶話云く筑戸田ハ次戸と  
書し住古ハ江戸明神とて江戸城の鎮守なり江と次と字形相似し  
土記ハ載せし江の江神社ありん祭祭神もま素盞鳴尊とて當社ハ武蔵國風  
土記ハ合せり猶兼五卷神田明神の祭下江戸の神社の考へを附せりてはあ  
當社ハ往古上平川の地ありしとて天正七年己卯田安の地ハ遷座又  
元和二年丙辰今の地へ移しし 借ハ筑戸は作らる後 中古田安の地ハ鎮  
座の頂ハ田安明神と唱へしとあり祭禮ハ九月十五日なり  
築土八幡宮 津久戸明神の宮居ハ並入地主の神中々別當ハ天台



築八宮同明社  
土幡神



滕喜洛陽千歲  
 光瑞烟祥氣入  
 望昌三條橋影  
 遊魚聚十字街  
 頭征馬愷宕岳  
 風來吹袂過敵  
 山雲度引紳長  
 金湯城上立鷗  
 尾九陌不消逐  
 墨方山崎垂加



宗松靈山無量寺と号す

祭神應神天皇神功皇后仲哀天皇以上三座なり相傳へん 嗟哉

天皇の御宇此地一人の老翁住す常は八幡宮とて信す或時當

社の御神此翁の夢中ニ託し永く此地ニ跡を垂たまらんとのり

老翁奇異の思をなす 其翌日一松樹の上ニ瑞雲駿驟して旌旗の

めくあらしを見る 松雲山の号 時一羽の白鳩来りて同一樹間に

やゝゝ郷人翁の靈夢を聞く直に此樹下ニ瑞籬を繞らし

八幡宮と崇む遙の後慈覺大師東國遊化の頃傳教大師彫造

しつゝ此の阿弥陀如来を本地佛とて小祠を径始す其後文明

年間江戸の城主上杉朝興社壇を修飾し此地の産土神也

すとのみ 或書よつゝ當社の地ハ往古菅領上杉時氏の里の旧跡

逢坂 或大坂 牛込 船河原町の西今輕子坂と呼ぶハ是なり 此坂下法溝

美佐吾とひとめてこまをむく月日経て美佐吾ハ 帝はや

美佐吾とひとめてこまをむく月日経て美佐吾ハ 帝はや

ぬす時美佐吾のひとめて我死ん後ハかかす亡骸と武藏の國ニ

おくりさねうろ住る辺へ葬るゝとて境をさるゝ小隔を

ぬす時美佐吾のひとめて我死ん後ハかかす亡骸と武藏の國ニ

武藏野とてつけをあらはしこゝ塚もむさゝ塚もむさゝひるゝの勢

り身まうりぬるもさうさうりしうむり戀慕ひて神少孫と

佛あちうひあけくを歎き悲しむある夜夢のさくゝある

かゝるぬ姿をりしうはれとておほえてあゝむつゝかゝるをむ

かゝるぬ姿をりしうはれとておほえてあゝむつゝかゝるをむ

かゝるぬ姿をりしうはれとておほえてあゝむつゝかゝるをむ

かゝるぬ姿をりしうはれとておほえてあゝむつゝかゝるをむ

かゝるぬ姿をりしうはれとておほえてあゝむつゝかゝるをむ

かゝるぬ姿をりしうはれとておほえてあゝむつゝかゝるをむ

かゝるぬ姿をりしうはれとておほえてあゝむつゝかゝるをむ

かゝるぬ姿をりしうはれとておほえてあゝむつゝかゝるをむ



くろくふも姿乃消くせよれハ美佐吾う身まうりぬるるとありて  
此わりの淵は身と投と空一かりたりとありて  
此石と逢坂といひたりとありて  
神楽坂の西の小坂と土俗幽冥坂といふ所なり  
逢坂と混りて又地名あり坂といひ女の名と云ふ

神楽坂 同所牛込の御門より外の坂とありて坂の半腹右側小高

田穴八幡の旅所あり祭礼の時ハ神輿此所ハ渡りせらるる  
其時神楽を奏するは此号ありといふ  
或云津久土明神田安の地より  
今之処へ遷座の時此坂を神楽

若宮八幡宮 同所若宮坂の上若宮町あり  
或若宮小路 別當八天台

宗普門院と号は相傳ふ文治五年の秋右大将頼朝卿奥州の  
泰衡を征伐せんう為小發向を時宿願ありて奥州平治の後

当社を宮と鎌倉鶴ヶ岡の若宮八幡宮を移し其の  
若宮ハ仁徳天皇より後  
應神天皇は改め祭ると云 文明年間太田道灌江戸城鎮護の

為当社と再興一社壇と江戸城小相對せしむるとあり  
牛頭山行元寺 千手院と号は同所神楽坂の上寺町道より右小

あり天台宗東叡山小属を本尊千手觀音大士の像ハ惠心僧  
都の作なり 襟懸の本 慈覚大師を兵山とせしむ

今之牛込御門の辺小ありて神楽坂中門の旧跡あり  
破壊を項のものと云古き大般若經を秘藏せりと云昔門内左右小南天樹多り

本尊縁起云右大将頼朝卿石橋山合戦の後安房上總を歴く  
下徳國より此國小打越あり項より前は通夜を其夜の差ハ頼朝

卿自ら此靈像を襟小かけしとあり源家の武運を閑くと云  
あふ後果して天下を一統せしれりより頼朝襟懸の像と

牛込城址 同所藁店の上の方至旧地ありと云傳ふ天文の項牛込宮内

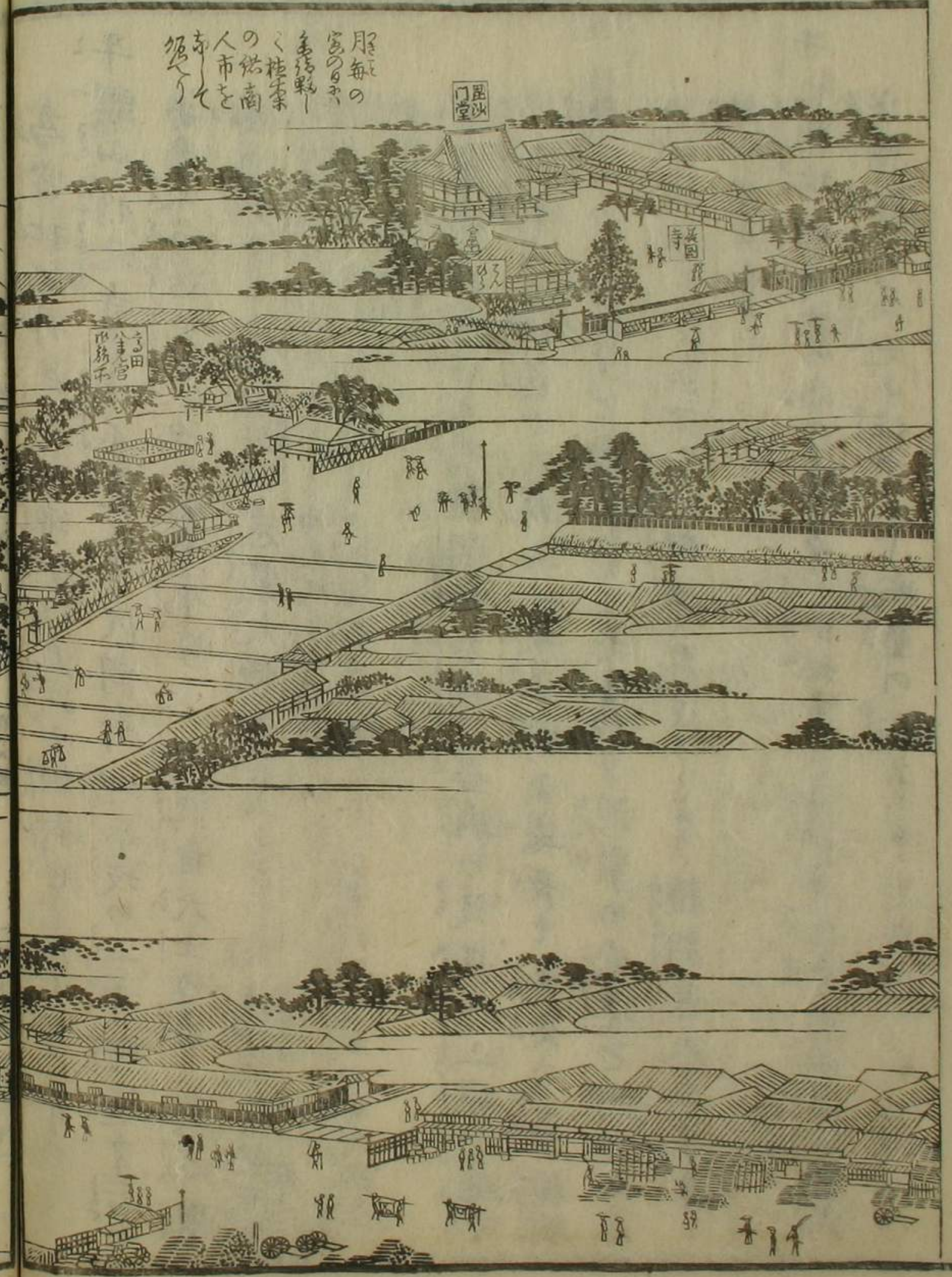
少輔勝行此地小住りて城壘の跡ありと云

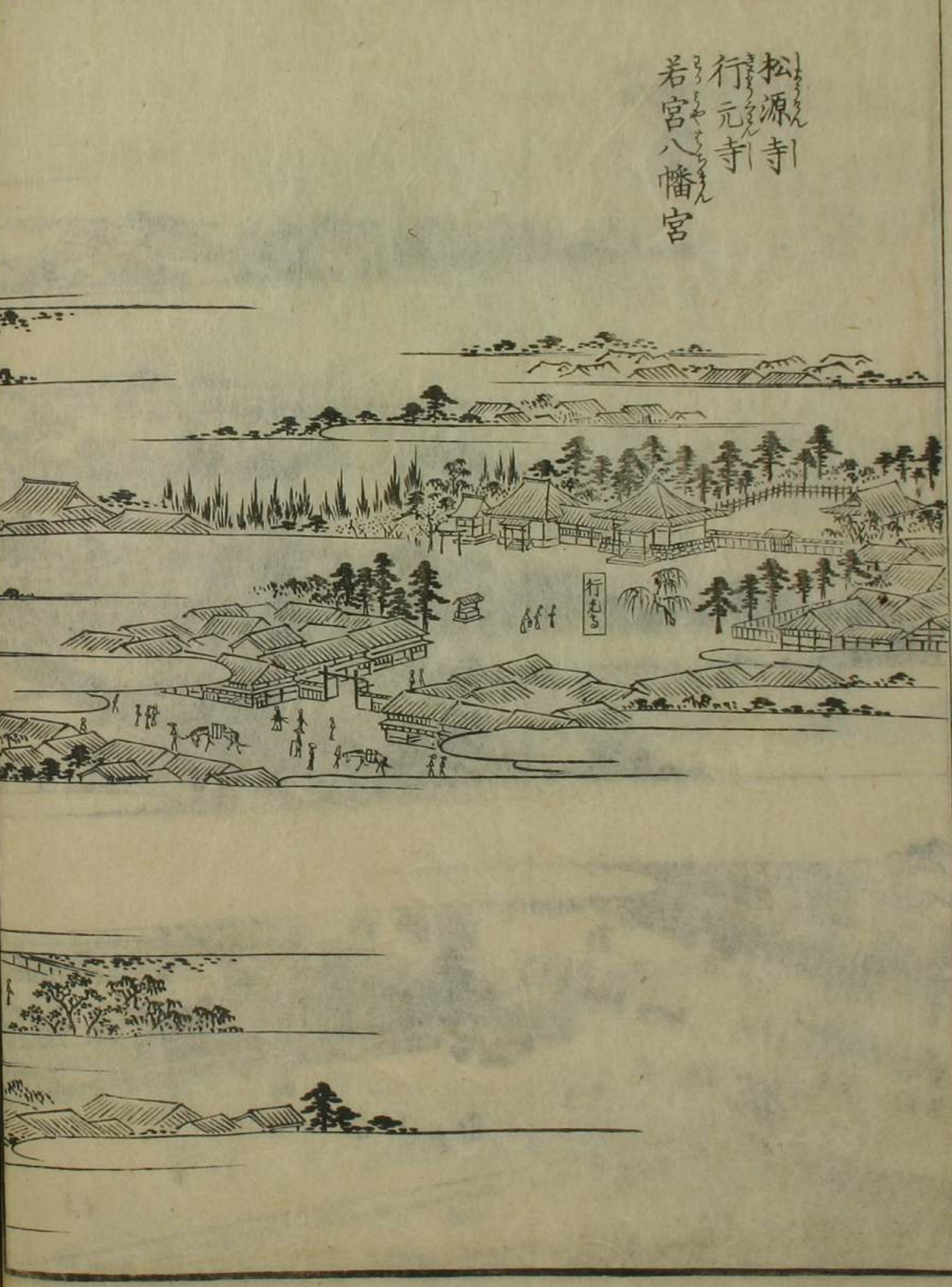
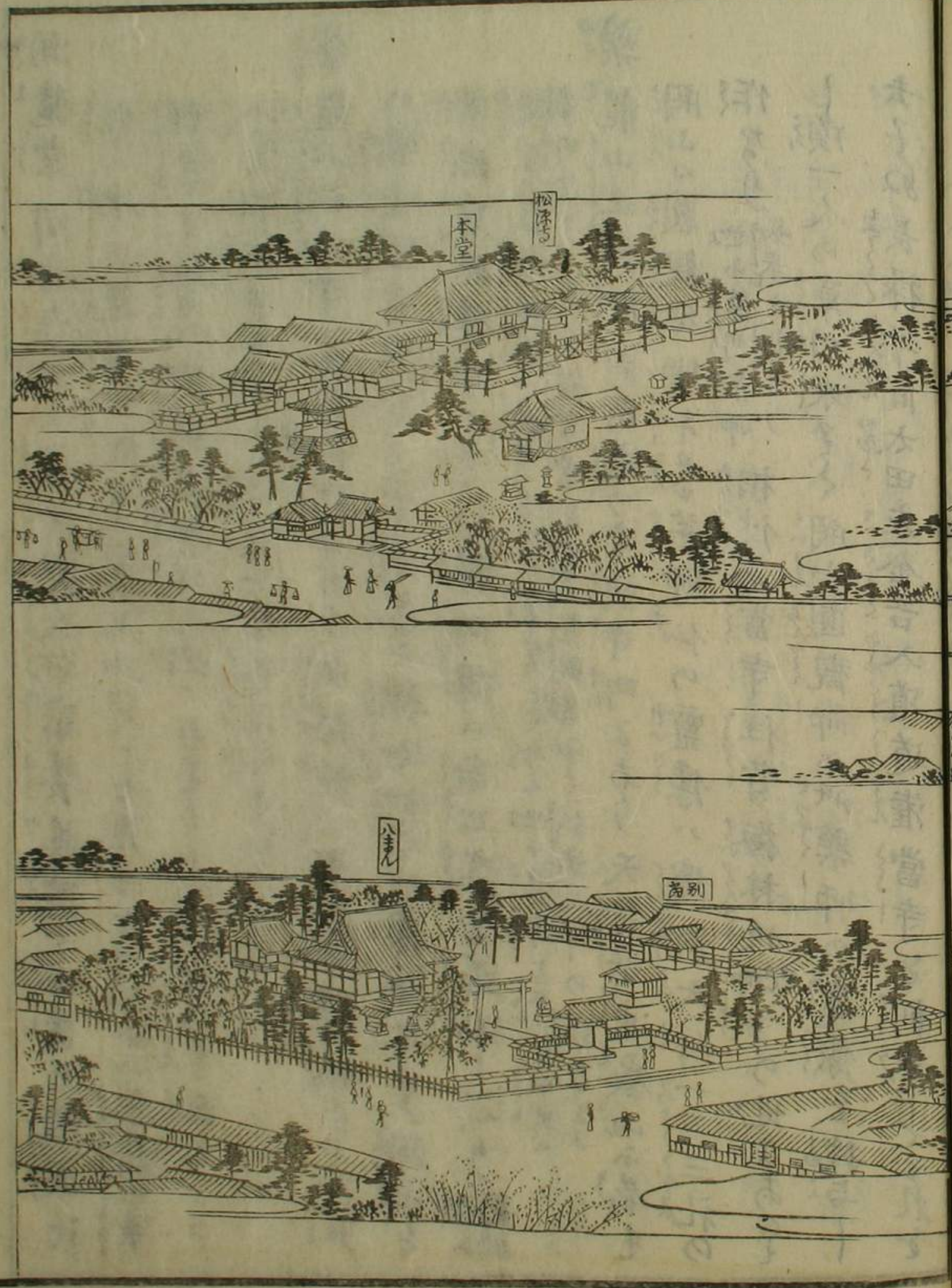
神樂坂



月毎の  
家の  
多き  
桂  
の  
市を  
賑  
ふ

門屋





松源寺  
行元寺  
若宮八幡宮

閻魔堂 同所寺町の通左側天台宗養善院に安置を閻王此  
像ハ佛工運慶の作なりとのみ正月と七月の十六日ハ恭詣の輩  
群集す昔ハ河城内平川の地ハありとのみハ傳へて証と  
今も平川寺と号く中興と智導法印とのみ

蒼龍山松源寺 同所向側あり花洛妙心寺派の禪林ハ江戸  
の觸頭四ヶ寺の一員とのみ本寺ハ釋迦如来の像を安す閑山ハ

靈鑑普照禪師と号け禪師諱ハ宗丘字を蓬山とのり  
蓬山とのみ昔境内ハ猿をつあきて置けり今も世ハ猿寺と号く旧地ハ  
番町なりとのり觀音堂ハ聖觀音あり弘法大師の作なり

龍山正藏院 同所南の方横寺町あり天台宗東叡山ハ屬屯  
閑山ハ圓觀律師本寺茶師ハの靈像ハ傳教大師一刀三礼の  
作なり

世ハ草刈茶師相傳ハ當寺往昔梅林坂の地ハありと  
一頃一人の草刈來り閑山圓觀師ハ此藥師の靈像を授与し  
去りぬ長祿年間太田左金吾入道道灌當寺を創建してこれを

本寺とす其後上杉朝興も信殊ハ厚く牛王室印等を寄附  
せりまたりとのり今も是を傳へり當寺昔ハ平川梅林坂の辺ハ  
あり後年田安の地とのり元和年間今の所ハ地をわけてせり

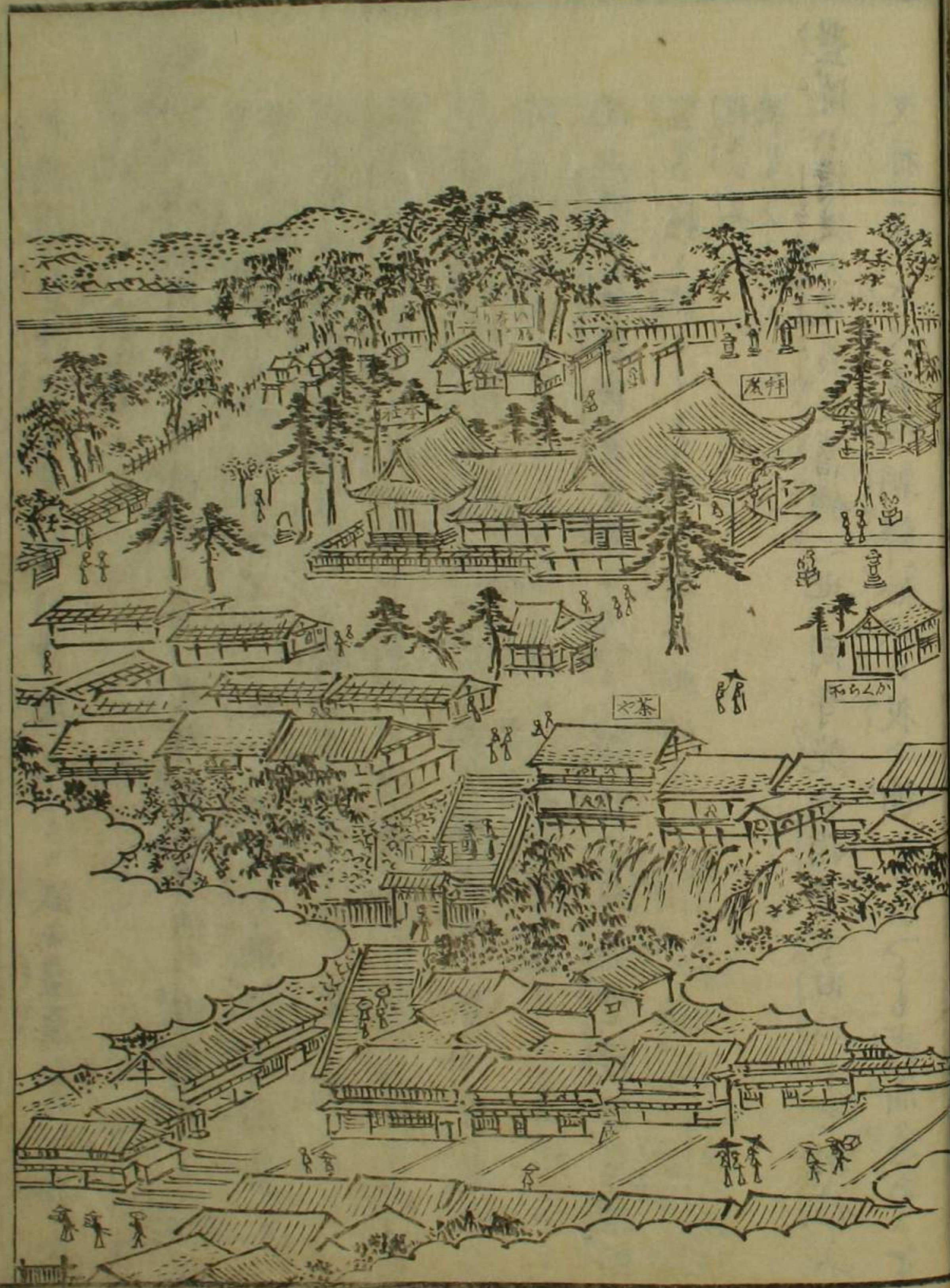
赤城明神社 同所北の裏通あり牛込の鎮守中々別當ハ天台宗  
東覺寺と号け祭神上野國赤城山と同神や々本地佛ハ將軍  
地藏と云住古大胡氏深く此神を崇敬し始ハ領地ハ勸

清く近戸明神と稱す其子孫重泰當國ハ移りて牛込に住せり  
又大明を改め牛込を氏と其居住の地ハ牛込と祖先の志を継ぐ

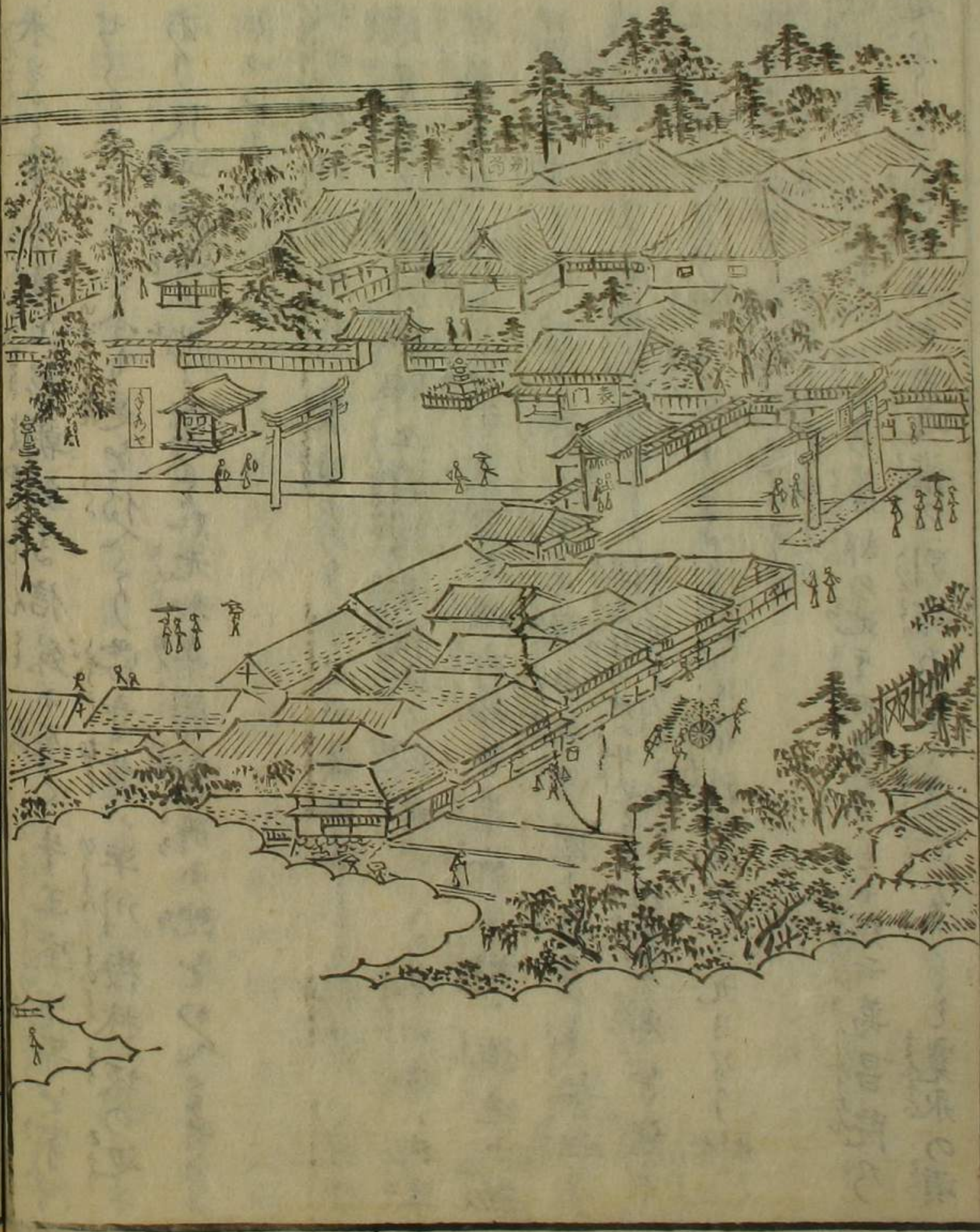
此神をこつ小勸請なりとのり祭礼ハ九月十九日なり  
勸請の地ハ目白の下關口領の田の中ハあり

河殿山 同く東の方中山家の藩邸の地ハ旧址なりとのり或云萬昌院乃  
辺なりとのり相傳ハ太田道灌の別館あり舊跡なりとのり寛永の頃

今も此寺ハ未立ありて是を赤城の禪と云へり



赤崎城神明社



大將軍家沙故鷹の時の沙儲とく假小建置多ひ沙殿の地なりとのへと

陰涼山濟松寺 同所榎町あり 京師妙心寺派の禪窟なり

寺より輪番本寺釋迦如来を安も閑山八心印正傳禪師開基素

心尼なり此尼ハ牧野兵部少輔政玄の女中く春日局と共小

大將軍家眠近の侍女なり當寺ハ沙佛殿あり芳心院法別當

を務む此寺ハ芳心尼沙佛殿の前の池を鳳凰池と稱く靈龜水

芳心院の地ハありく寛永の頃ハ沙茶の水ハ掬さるあり

閑山塔ハ養春院是を預るま僧坊六宇徑堂鐘樓庫裡浴

室等巍々然とく軒を連絡輪煥く 三佛堂の額ハ天下陰涼とあり

隨自意院宮一品准后公啟法

豐後小侍大友義延舊館之地 同寺院を指く其旧跡とを相傳

文祿二年大友義延朝鮮征伐の役ハ補せしむ武備急あり

以て豊臣大將罪く當國へ迂く此地ハ藝居せしむ此地即其旧

跡なりとのへ 南向茶話云大友左兵衛督義統文祿年間朝鮮征伐の役ハ

義延此地ハ住む義延ハ後四位小叙侍從小任も豊後小侍と稱く

慶長五年閑原一戦の後常州疏波郡小於く三十五百石の地を賜

早世も又江戸鹿子との草紙ハ義兼と其後大橋立慶此地ハ居住せ

記せハ義延のを認る 望海毎然とのの寛永十七年の事實を記せ

高田天満宮の祠あり 高田天満宮の祠あり

大友松 同所天神町の東ハ續きく沙持筒組高野氏の地ハありと云

昔大友義延ハ別荘の庭前の松ありく其後回祿ハ亡ひり

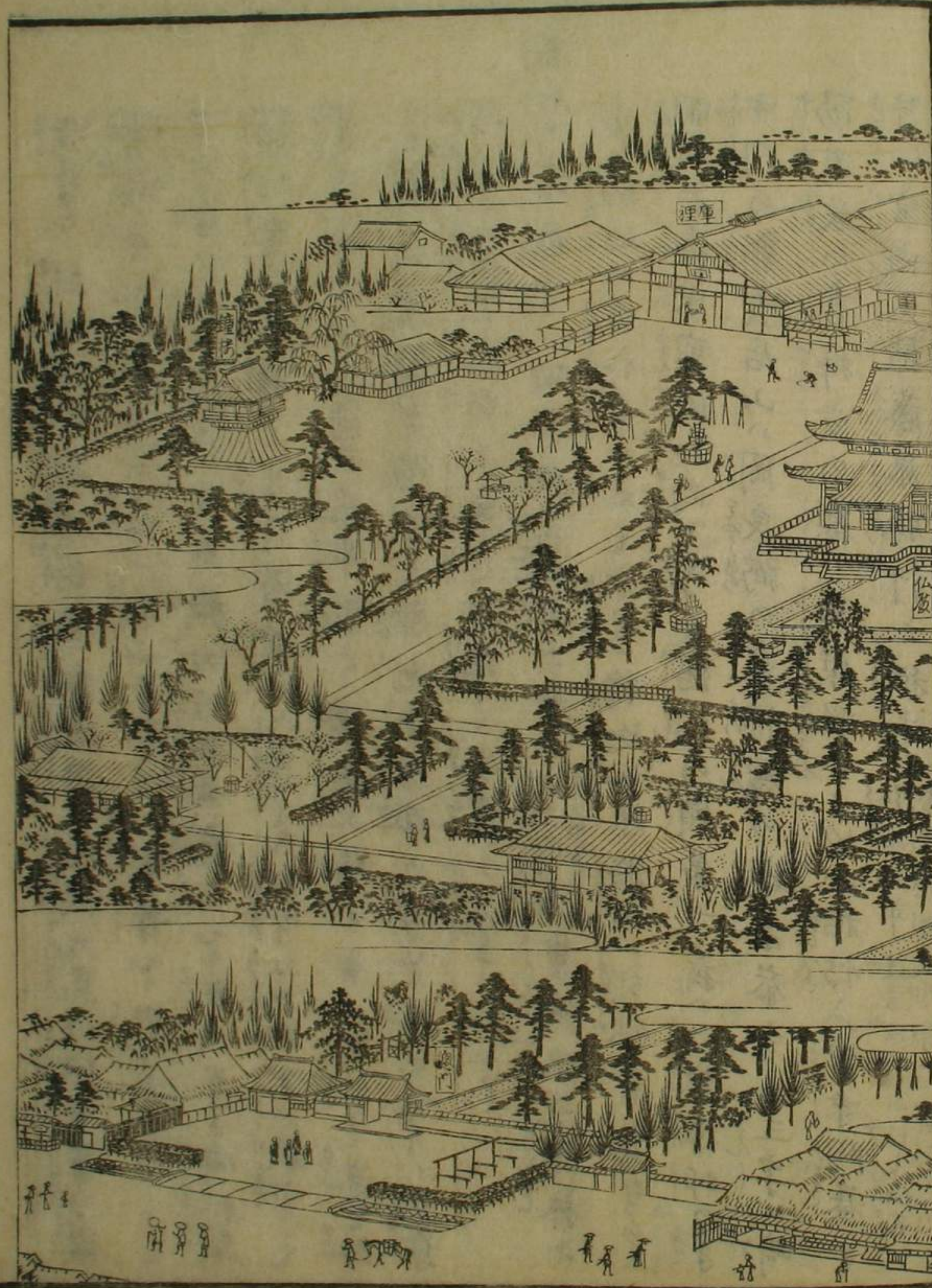
其地の主旧跡を失むるを歎き若木を栽られりとのへ

家の傳説ハ大友宗五郎義延武州へ過る頃後ひ来り家臣吉良傳左馬

大友稻荷祠 同所ハあり是も義延の勸請とのへ

一樹山宗拍寺 濟松寺向の横小路ハあり日蓮宗京師頂妙寺ハ屬

せり閑山ハ日意上人と号ハ本寺釋迦如来の像を傳教大師の



濟松寺



作なり相傳ふ延暦年間傳教大師桓武天皇の詔を奉り鎮  
護國家除災延命の爲ふ巖山小於之此靈像を彫造ありしと  
なり然ふ元龜二年辛未倣田信長公巖山を放火せし時仏閣  
僧坊悉く灰燼す其時護持の人ありし此本を以て取せし  
恙なかりしと後水尾帝深く佛乘小帰し其を以て是を拜  
し多し又宸翰を賜ひく釋迦牟尼佛の号を添ふり日意  
師此本を感得し當寺を闡く安置し奉るものとす

雲居山宗恭寺 同所辨財天町あり 此地を土俗曹洞派の禪林小  
し駒込の吉祥寺小属を本寺釋迦如来脇士ハ文殊普賢なりし  
開山を看采稟阿和尚と号く徳門の額第一義ハ心越禪師の筆  
中門の額雲居山ハ岡良弼の書佛殿の額宗恭寺の三字ハ崎  
陽道采の書禪堂の額ハ黄檗悦山との相傳ふ當寺開基を  
牛込宮内少輔藤原勝行と稱す 弘治元年後五位下小住法名を  
參秀院殿心外清雲庵主と号す

當寺小墳 鎮守府將軍武藏守秀郷の後胤大胡重俊 上野國大胡  
墓あり 鎮守府將軍武藏守秀郷の後胤大胡重俊 上野國大胡  
かこ住す則大胡太郎と稱せり重行小建ひく此牛込小移り住す土人牛込殿と  
より或人云家系小大胡太郎成行十代の孫同彦次郎重治上州大胡武  
州牛込小移り住す 十代の孫重行の嫡男なり 重行ハ宮内少輔と号し法名ハ  
と号し天延十三年卒 北条氏康の麾下屬し武州牛込及今井 赤坂の  
又當寺小墓あり 或人云其家系 其余下徳の堀切千葉等の地を領し牛  
櫻田比々谷 或人云其家系 其余下徳の堀切千葉等の地を領し牛  
込小住す 永祿北条家の分限帳小江戸牛込比々谷本郷葛西の堀切等の地大胡氏  
込其餘高田落合関口小日向富塚小石川の金杉市谷田安櫻田 天文十三年甲辰  
朝草同金杉等の地名を所領の中小注し加がとり櫻田朝草ハ淺草と云ふ  
父重行の菩提を吊りんが當寺を創建し寺田を寄附し父重行  
の法号を採り寺の号小呼へし同二十四年乙卯後五位下小任す  
其時氏康告く大胡を改り其采邑の名の牛込とせり氏とを 天正  
八年北条氏滅亡の後勝行の子勝重天正十九年辛卯始て 大神君小謂し其後  
勝幕下より或人云勝行の子ハ俊重といふ慶長十五年始て三代大將軍と拜し  
兩儀の御當家は屬し奉ると  
大胡重行同勝行父子之墓 境内卯塔の中あり一基の石碑ハ父子の法号  
ありしを刻せ或人云大高季明の書ありと



高田本松寺  
願滿祖師堂



三明山千手院 同所七軒寺町あり真言宗開山ハ舜倚法印と  
号モ本尊千手觀音の像ハ身長八寸九分脇士多門持國の二  
天サ小赤梅檀中々毘首羯磨天の作なりと云々相傳ふ往古

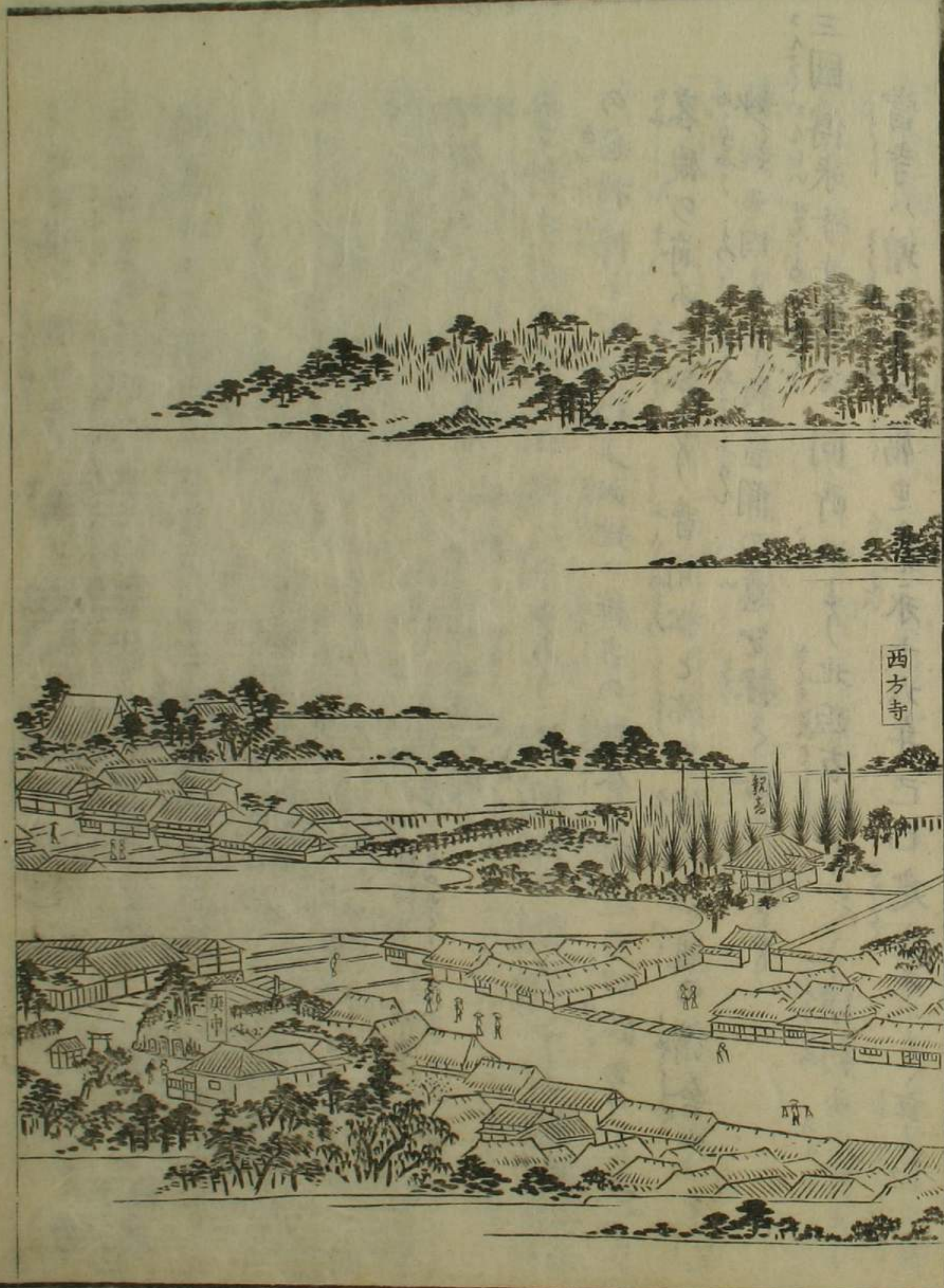
越後國安巨山小あり一々天正年間豊大洞秀吉公柴田勝家と  
戦ふ及んで蒲生氏郷の臣殿池玄蕃といひ人是を感得を既  
中して元和年間蒲生家敗壞の後殿池ハ下總國佐倉の城主  
堀田家又仕入故あり一々富永氏某傳來一後當寺ハ安置一  
つりといふ

正定山幸國寺 同所原町小あり日蓮宗小湊の誕生寺ハ屬モ  
開山モ日觀上人と号シ當寺ハ安置の日蓮大士の像ハ世ハ布引の  
御影と稱せり傳云文永七年庚午宗祖大士鎌倉小在一頃房總  
の國郡数月疫癘流行せり一々於一人民大士小救を求む乃大士

若菜島  
神明宮



佛工を以て自の像を造りて白布に經題を書きて其手  
 掛多し喟して曰く則是日蓮なりと云く依りて此靈像を其地  
 移すに疫疾の患へ頓に退きしを故に此靈像を小湊の誕生  
 寺に安置したり又宗門流布の爲寛永七年庚午二月  
 十六日當寺に移し其像を以て當寺に加藤肥後守清正  
 の開基ゆゑ宗祖の靈像に寒暖に應じ衣服を改むるに  
 池上不同しきとのみ故に其衣服八年  
 神明宮 早稲田大田圃にあり祭神天照春日八幡三座あり同所  
 赤城明神の別當等覺寺より兼帶を祭礼に九月十六日あり鎮  
 座の年歴詳ありと云く  
 赤城明神舊地 同所田畔小川に傍てあり大胡氏初に赤城明神と  
 勸請せし地なり故に祭礼の日ハ神輿を此地に渡りてあり  
 本妙山感通寺 高田穴八幡の馬場下南の坂上より日蓮宗に



西方寺



誓開寺  
西方寺

誓開寺

西方寺

小湊の誕生寺に属す開山を寂陽院日建上人と号す當  
寺に安置の毘沙門天王の靈像ハ行基菩薩の作なり越後  
國高田の日朝寺に安置せしを越後以將 忠輝の母君より  
遷しあり日蓮上人傳ふに宗祖上人弘むる所の法華經の功德を  
祖大士と尊く寺僧吉祥是と号し直大士の法に足泥土小織れぬ  
高田の日朝寺にあり上杉謙信公の靈像を尊く歌し家小相傳せし  
謙信天正六年卒を依り後奥州米澤の城に  
摩利支天の像ハ松樹の下あり頼朝卿の勸請なり頼義朝臣  
の念持佛といひは此地ハ往古の鎌倉海道の日跡ありといり  
客殿の前ハ一松あり普聞松と稱せ法花弘通の精舎なりとい  
妙經に因く名稱普聞の意を採く名つとあり  
三國傳來千手觀音 同所坂より北西方寺といふ浄刹に安置せり  
當寺ハ増上寺に属す寛永十六年己巳建立なり亨譽貞義

和尚開山より相傳ふ往古弘法大師唐土青龍寺の惠果阿  
闍梨より授与せられ中印土の靈佛ありといり大師帰朝の  
後高野山の塔安置ありと彼山麓に住る流水といふ山門  
感得し武州浅草に移しなり故ありと開山貞義和尚當  
寺に遷しなり故に三國傳來の稱ありといふ  
自樂居士墓 境内卯塔の地あり備前國の産中より既百十  
四歳なり常不壯年の人のみく見ゆ文字を書きしを得たり  
一人衆人のをいふあり百歳の頃より壽の一字を學ひぬく是を依り書て  
龜鶴山誓願寺 同北に隣る易行院と号し浄土宗中より靈巖寺  
小属を本する五智如来の像ハ各長八尺開山木食本誓上人秋風誓願  
和尚の作なり常念佛の道場なりと清浄無塵の佛域なり當  
寺昔ハ少の庵室なりと前ハ松樹四株を植く方位を定め  
方松庵といひたりと今四五十歩南の方道と隔て向ふの側ハ  
庚申堂あり是則昔の方松庵の地なり



高田八幡宮

世穴八まん  
とよ

法輪

稲荷祠 境内あり 岡山普賢閣和尚ハまつくら 仙像を作らるるを得る常ハ吹草を  
 吹草祭をなせしとあり今も 垂枝櫻 本堂の前ハあり 菊岡法親王の題なり 附て云當寺境内ハ横  
 たる余風を年々とありあり たる小溝の流をせしとあり 豊島郡と荏原郡  
 たる環とも當寺鐘の銘ありとあり 今古川と  
 金川 同所穴八幡の前を早稲田の方へ流る小川と云とあり  
 水源八戸山 沓庭中より發するあり 文明年間太田道灌遊獵の  
 時急雨小逢ハ此地中々昔ハ川の幅も廣りありとあり 項ハ加  
 奈川又加能川とも稱するあり 或ハ蟹川  
 高田八幡宮 牛込の總鎮守中々高田あり 世穴八幡 此地と戸塚  
 と云別當ハ真言宗中々光松山放生會寺と号ハ 旧名ハ威盛院中  
 たり 祭礼ハ八月十五日中放生會あり  
 旅所ハ牛込神永坂の中腰あり  
 社記云寛永十三年丙子沙弓隊の長松平新五左衛門尉源直次ハ  
 與力の輩射術練習の爲此地ハ的山を築立らるハ幡宮ハ源家の  
 宗廟中々あるも弓箭の守護神あれはとて此地ハ勸請せんるを



謀る此山小素より古松二株あり至頃山鳩来つゝ日々小此松の  
枝上遊ふを以て靈瑞と假ふ八幡大神の小祠を營々々々  
件の松樹を神木とす南阿向亭云く此地八幡早稲田邑の地中島との八此地上  
静津六共衛との富民あり往古北奈家小仕へ  
士ゆゑ人の持傳へし此地昔ハ阿弥陀山と呼來るありされと其  
山林ありありしと  
所以を知者なるや同十八年辛巳の夏中野宝仙寺秀雄法  
印の會下威盛院良昌との沙門あり周防國の産中々山口八  
幡の氏人なり幼くして毛利家の侍榎本氏某小仕へ榎本氏後十  
九歳の年道世一々高野山小登室性院の法印春山の弟  
刊とあり一紀の行法をとけく三十一歳の時より諸國依り此沙門を迎へ  
後行の志を發し同さぬの奇持をあらはせりとの  
社僧々々々故小同年の秋八月三日草庵を結んて山の腰を  
切開時小砂川の靈窟を得りとの窟中石上小金銅の阿弥陀の  
靈像一軀たせあり長三寸八幡宮の本地ありあり山号に相  
應をもとて奇ありしと  
應をもとて奇ありしと穴八幡の号こく起り其又此日將軍家  
此址今衛坂の傍小あり  
淨令嗣 嚴有公 淨誕生あり一ハ衆益を靈威をある  
同年八月九日

社頭の猿一町四方小備張りし地を備き本社とハ神木の松の本小込ハ八重垣を結  
まをりし時加州大守教百の歩を贈りし地と築固やむ依り日ハ成  
同十四日社宮の式を執りし松平新五左衛門尉とカの人と引供り山  
幕を張式正の小的を建る神射法あらはし小池の阿某り子十二歳ハ是を  
勤むと後元禄年間今の宮居を淨造營あり結構備たり  
云云 嚴有公殊小當社を崇敬あり宿願の満ちる後當社を  
南向亭茶話小 嚴有公殊小當社を崇敬あり宿願の満ちる後當社を  
宮せり裏門ハ内藤豊前守普賢堂ハ松平左近將監淨水垣ハ増山兵部少捕  
御昌院殿ハ再興あり又江府神社略記及ハ和漢三才圖會等の書ハ元禄年中  
若宮八幡宮 本社の前  
東照大権現 同所小並つせあり毎年四月  
氷室明神祠 本社小相對す盛徳との二字と彫り額を掲ぐ祭神大己貴命  
三年正月二日金降の住人渡邊氏是善靈夢の應あり此神を祭る直良此神小  
祈願し平愈も同七年の頃始て鎮座せしむるに依り  
光松 別當寺と本社との間坂の支路ハ南阿向亭云く此地昔ハ松樹繁茂せし山林  
中々又寛永十三年始當社ハ幡宮勸請の頂此樹上ハ山鳩来り遊びと云  
放生池 石階の下あり岩小應あり清泉あり  
出現所 坂の半段絶壁小あり往古の靈窟の旧址なり近頃地小出現堂と  
影けく九品佛の中下品上封の阿弥陀の像と安置せし堂宇あり今を



高田稻荷  
昆沙門堂  
富士山  
神泉  
守宮池  
寶泉寺





能舞臺址 杖社の左の方あり今礎と存するの寛延三年

抑當社の別當寺を光松山と號すも神木の奇特ありてあり

神と君との道直中々治る序代の濁りあり石清水の清き誓ひ

寂ももろくを思われる殊更元祿の頃序再興ありしより和光の神

徳日く小顯ましく昭然し

高田稻荷明神社 同所八幡宮より右の方道路を隔てあり戸塚村の

産神と稱す故に戸塚稻荷とも呼ぶも本地佛聖觀世音八南都徳一

大師の作あり相傳ふ當社の権輿ハ最久遠なりし文龜元年辛

酉上杉治部少輔入道朝良 南向亭 靈夢より依る宮居を再興し

戸塚村の地と社領小附せり 當社古き棟札を蔵すに文小云く天文十九

坊秀宝大工と左衛門同左衛門五郎とあり按ふに主膳時國再興別當室泉

上州大明氏の後裔武州牛込に住し天文二十四年氏を牛込に改むるの考す

系あり牛込宗參寺の傳記に載せりよのく時代を合せ考ふれば大明氏も天文十

九年の廟あり牛込氏に改めりし時あり然れば此の時國のハ自ら別の人あり

後元祿十五年壬午四月靈告ありし頃の控あり

靈泉涌出す眼疾を患ふる者此靈水を以て洗ふと奇

驗あり仍土俗當社とぞ水稻荷とも稱せり毎年二月初午日

奉射あり祭祀ハ九月九日なり

神泉 社前榎の控あり

毘沙門堂 同境内小高き丘の上あり本々毘沙門天王の靈像を

慈覚大師の作あり武藏守藤原秀郷の念持佛ありと云り

相傳ふ慈覚大師江州唐崎の濱小至る江の苗を拾ひ得あり

内小長一寸八分の多門天の靈像あり大師隨喜しく自是を念

持佛とす仁壽年間旧里下野國小下り佐野の大慈寺小入りあり

長二尺五寸の多門天像を彫刻あり先の靈像を胎中小竈に

まぬせ大慈寺小安置ありと天慶中武藏守秀郷平將門を征

伐の後此地に移しとあり 業の一本と云ふ冊子小秀郷將門を退治せ

毘沙門天の現しありと自ら 拜殿小掲る所の多聞天の額ハ長崎



高田  
天満宮

世迎小  
花後小  
花後小



